



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 172 号

平成 30 年 8 月 31 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「ごきげんさん」

(写真撮影：医学科第 3 学年 小笠原 亜美)

| | |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 平成30年度入学生への学長挨拶 ……学長 吉田 晃敏…… 2 | 旭川医科大学に入学して ……看護学科第 1 学年 大村 帆乃……21 |
| 医学教育の昔と今 ……副学長(教育担当) 吉田 成孝……14 | 旭川医科大学に入学して ……看護学科第 1 学年 後藤 僚汰……21 |
| 病院長挨拶「働きがいのある職場の構築」 …病院長・副学長(医療・地域医療担当) 古川 博之……15 | 旭川医科大学に入学して ……看護学科第 1 学年 館 美頼衣……22 |
| 教授就任のご挨拶 ……病理部・病理診断科 谷野美智枝……16 | 平成30年度入学式を挙行了しました ……………23 |
| 教授就任のご挨拶 ……教育研究推進センター 松本 成史……17 | 平成30年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました……24 |
| 旭川医科大学に入学してもう 4 か月 ……医学科第 1 学年 秋田谷悠佑……18 | 学生海外留学助成制度を利用して ……医学科第 3 学年 小山 光真……26 |
| 旭川医科大学に入学して ……医学科第 1 学年 岡 ひなた……18 | 学生海外留学助成制度を利用して ……医学科第 5 学年 田中 真緒……26 |
| 旭川医科大学に入学して ……医学科第 1 学年 佐藤進之介……19 | アメリカで学んだこと ……医学科第 5 学年 桑原沙弥佳……27 |
| 旭川医科大学に入学して ……医学科第 1 学年 英 芳和……19 | 学生海外留学助成制度を利用して ……看護学科第3学年 修 実夏……27 |
| 旭川医科大学に入学して ……医学科第 1 学年 山形 美月……20 | 医大祭2018「医子奮迅」を終えて 医大祭実行委員会委員長 大武 志帆……28 |
| 医学生として地域と向き合うこと ……医学科第 2 学年 上野 裕生……20 | 授業評価(平成29年度後期) ……………30 |
| | 教員の異動 ……………55 |
| | 今後のスケジュール ……………55 |
| | 第172号表紙……………55 |



平成30年度 入学生への 学長挨拶

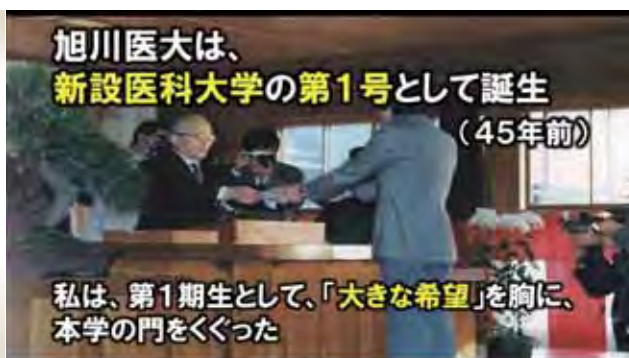
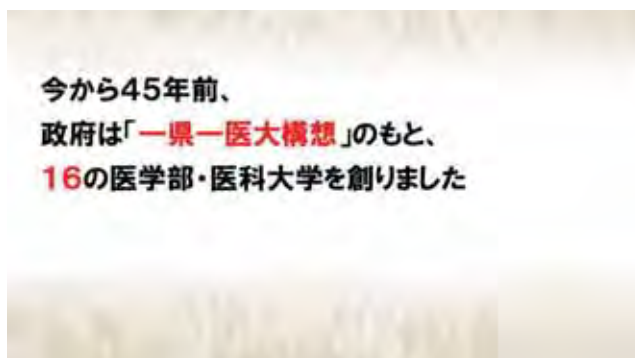
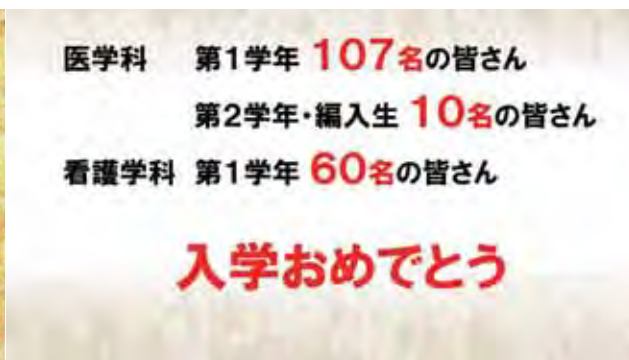
旭川医科大学 学長 吉田 晃 敏

この冬は異常気象が続き、大雪に見舞われた地域が数多くありました。旭川も雪が多く、寒い日が続きました。北海道に桜の便りが届くのはまだ先になりそうですが、旭川にも、遅い春がようやく訪れようとしています。これまでの努力が見事に実を結び、こうして本学の門をくぐった皆さんにとっては、まさに「待ち望んだ春」到来と思います。

入学された医学科第一学年107名の皆さん、医学科第二学年・編入生10名の皆さん、

看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからは、ここ旭川医科大学が皆さんの「夢を実現する舞台」です。私達教職員は、皆さんがこの「夢」を実現できるよう、全力で応援します。

ここで、私から新入生の皆さんに、スライド形式で「学長からのエール」を贈ります。医療を取り巻く現状や医学を学ぶことの厳しさ等を、写真やビデオを交えながらお伝えします。





道内では、毎年**300名**を超える医師が誕生
しかし、医師の半数以上が、札幌・旭川に集中
北海道は未だに医師不足

看護師不足も深刻
札幌などに集中し、看護師不足

「医療格差」を
解消したい

「医療格差」の解消

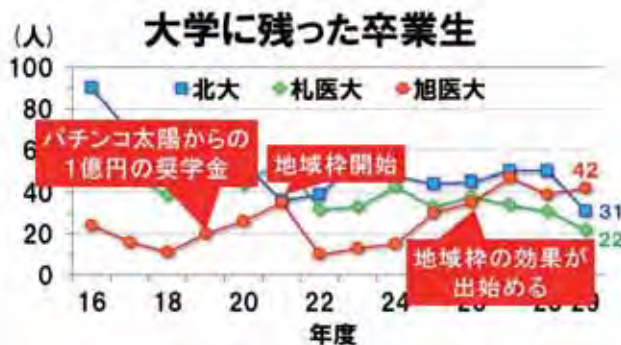
1. 入試制度 (医学科)
2. 遠隔医療

① **北・東、地域枠**
(10年前から)
10名



- ② **全北海道 特別枠** (9年前から)
- 北海道内から**40名**
 - 定員の約50%まで「**地域枠**」(全国初)
 - この地域枠で、卒業生の多くを**旭川医大に残したい**

結果 (医学科)



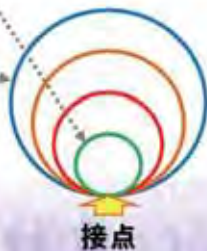
「医療格差」の解消

1. 入試制度 (医学科)
2. 遠隔医療



旭川医大は、ローカル(北海道の地域医療)も
グローバル(世界の医療)も

- グローバル - 世界
- リージョナル - アジア
- ナショナル - 日本
- ローカル - 北海道



よりグローバルに

よりグローバルに

1. 国際医療人育成枠
2. 遠隔医療の海外展開



「国際医療人育成枠」(来年度入学)
入試 A○入試で11月に実施
合格者 来年2月に発表

国際医療人育成枠

今年 **2名** 入学

- 毎年、外部の英語試験を受験
- 1～2カ月の海外留学を経験

よりグローバルに

1. 国際医療人育成枠
2. 遠隔医療の海外展開

G7 プロジェクト (郵政省、文部省)

1996年 (22年前)



立体ハイビジョン伝送



2006～2008年 (12～10年前)

中国への支援

始まりは、2010年 (8年前) 北京



中国での遠隔医療システム (吉田案)



2010年 (8年前)

中国政府が遠隔医療センターを視察



中国からの書簡

吉田先生:

.....

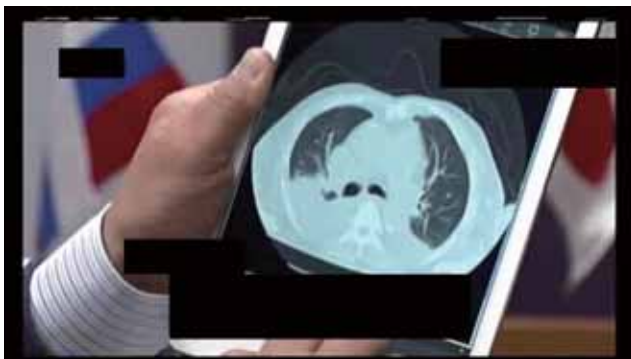
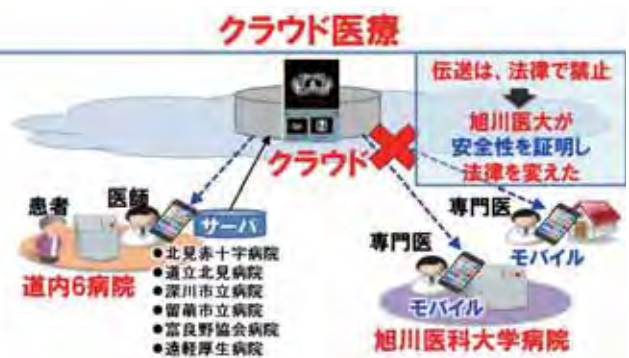
当方、中国の「第十二回、五か年計画」に
遠隔医療計画を入れ、
「吉田式の遠隔医療」を取り入れることを
政府で決めました

.....

中国衛生部

2011年 (7年前) (NHK)





- ### クラウド医療は、
1. 人(患者・医師)を動かさず、情報を動かす
 2. 医師が偏在している世界の医療を救う
 3. 医療費を削減できる
 4. ビッグ データを 集める
 5. 日米国際遠隔医療、20周年の果実!

- この世界初の技術を発表したい
日米遠隔医療20周年にあたって
ボストン、ハーバード大学で(吉田)
- 「いや、世界の中心:ニューヨーク
しかない」(外務省 北米 第2課)



NHKは、これを世界に1日で9回放映

NHK新記録

このニュースは、この日、世界で9位

NHK新記録

NHKでは、毎年100位以内に入るのは
1~2件とのこと

即座に、大きな大きな反響が...



海外に日本の病院を作るための
研究会

| | | | |
|-----------|-----------|-------------------------------|--------|
| 理事長 商社 | 慶應義塾大学 | 名誉教授 | 相川 直樹 |
| | 伊藤忠商事株式会社 | 開発・調査部 開発戦略室 担当課長 | 井上 秀二 |
| | 双日株式会社 | 化学本部メディカル・ヘルスケア 専業推進室長 | 濱中 通博 |
| | 豊田通商株式会社 | 食料・生活産業本部ヘルスケア 部長 | 渡辺 泰典 |
| | 丸紅株式会社 | 情報・物流・ヘルスケア本部 ヘルスケア・メディカル事業部長 | 小林 隆 |
| | 三井物産株式会社 | ヘルスケア・サービス事業本部ヘルスケア事業部長 | 眞北 健一郎 |
| | 三菱商事株式会社 | 生活流通本部 ヘルスケア部北東 京使 部長 | |

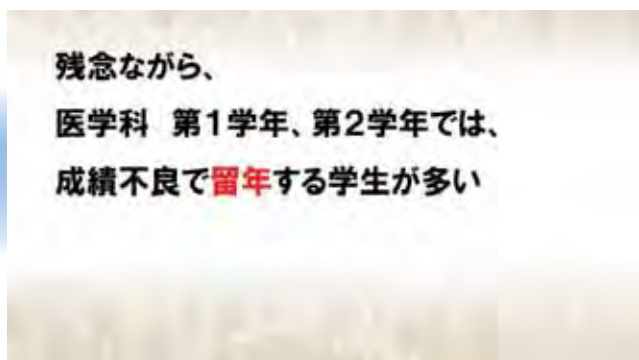
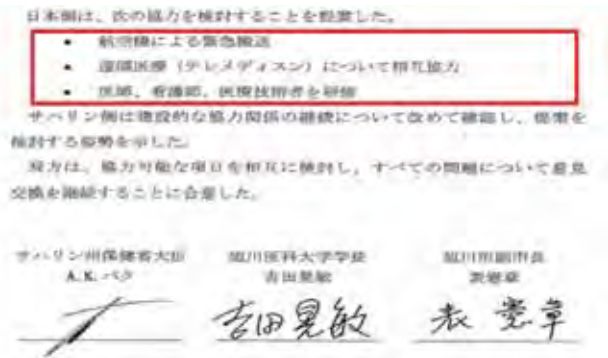
| | | | |
|----------|-------------------|----------------------------------|-------|
| ゼネコン | 清水建設株式会社 | 国際支店 営業部 部長 | 鈴木 正徳 |
| | 大成建設株式会社 | 取締役兼専務執行役員 医療福祉 社会資本部長 | 吉成 泰 |
| エンジニアリング | 株式会社竹中工務店 | 医療福祉・教育本部 本部長 | 角 精輝 |
| | 日揮株式会社 | インフラ統括本部インフラプロジェクト本部 ヘルスケア事業部 部長 | 三原 真 |
| その他 | アイテック株式会社 | 代表取締役社長 | 関 丈太郎 |
| | グリーンホスピタルサプライ株式会社 | 専務取締役 海外本部長 | 小林 宏行 |
| | セコム医療システム株式会社 | 業務取締役 | 高野 祐一 |

| | | | |
|-----|---------------------|-------------------------|-------|
| 金融等 | 独立行政法人国際協力機構 (JICA) | 人間開発部 次長 兼 保健事業部 二グループ長 | 児三 |
| | 株式会社国際協力銀行 (JBIC) | 産業ファイナンス部門 産業投資・貿易部 部長 | 横山 聖人 |
| | 株式会社産業革新機構 (INCO) | 投資事業グループ ディレクター | 眞石 保平 |
| | ワールドジャパン機構 | 専務執行役員 | 若井 英二 |
| | 株式会社三井住友銀行 | 成長産業クラスター 執行役員 工藤 ユニット長 | 工藤 祐子 |
| | 株式会社みずほ銀行 | 産業調査部 公共・社会インフラ 室 室長 | 川手 康司 |

| | | | |
|-------|--------------------------------------|----------------|--------|
| 医療関係者 | 公益社団法人日本医師会 | 副会長 | 寺村 聡 |
| | 一般社団法人日本病院会 | 副会長 | 相澤 孝夫 |
| | 公益社団法人日本看護協会 | 副会長 | 大久保 清子 |
| | 一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ) | 業務執行理事 | 北野 遼也 |
| | 慶應義塾大学病院 | 副病院長 医学部外科学 教授 | 北川 謙光 |
| | 順天堂大学 | 学長 | 新井 一 |
| | 旭川医科大学 | 学長 | 吉田晃敏 |
| 学長控 | 大阪大学大学院 | 医学系研究科長 | 藤 芳樹 |
| | 筑波大学附属病院 | 病院長 | 松村 樹 |
| | 医療法人純真会亀田総合病院 | 経営企画部長 | 真田 正博 |







今年3月には、

第1学年**19**名、第2学年**7**名が留年

過去3年間、第1、第2学年で

2ケタの留年者

大学は、高校、予備校とは全く違う

皆さん自身が、自ら、舵取り役に

ならなければ、多くを学べない場所

国家試験という、大きな壁に向かって、

しっかりと勉強し、突破してください

今年の**国家試験 合格率** (新卒者)

医学科 **97.0 %** 全国: 20位(国立: 7位)

札医大 93.6 % 全国: 51位

北大 89.5 % 全国: 70位(国立: 42位)

看護学科 **100 %**



私達も悪夢を見ました



劇的なV字回復



今後の旭川医大





IHHヘルスケア

アジアで最大の病院経営グループ
従業員は 25,000人

- シンガポール、中国、香港、マレーシア、インド、イラク、トルコ、ベトナム、UAE などに、**50病院**
- 大株主は、
 - ① マレーシア政府系投資機関 (50%)
 - ② 三井物産 (18%)
 - ③ 米国シティグループ



- この「センター」で、
- 各国から、**医師、看護師、技術者**を、毎年10名位ずつ、受け入れ、「**高度医療**」を教育
 - 「**日本製の**」最先端・医療機器を使い、帰国後は先方の国に、それを購入してもらい、教育を継続
 - 教育の継続には、旭川医科大学しか**実践していない「クラウド医療**」を海外へ応用
 - 相手国の医師などを十分に教育した上で、相手国に病院を造る



私が入学生に望むこと

**夢
情熱
感動**

さあ！
**一緒に、最先端の医学・看護学を
学びましょう！**
それが、「**地域医療**」に繋がります！！
そして、**世界**を目指しましょう！！

旭川医科大学での
皆さんの
活躍の場は、「∞」です

Let's aim high
for the our generations!

入学おめでとう





医学教育の昔と今

副学長（教育担当） 吉田 成孝

この度、7月1日付で教育担当副学長に就任いたしました。また、同時に教育センター長としても、学部教育に関する業務に携わっていくことになりました。私が平成13年（2001年）4月1日に解剖学講座の教授として旭川医科大学に赴任して、17年余りがたちました。現在は医学科2年次機能形態基礎医学Ⅱと形態学実習Ⅱの2科目をはじめとして、解剖学の講義と実習を中心に教育活動を行ってきています。これらの科目は比較的學生と接する時間が長いので、医学科2年次以上の學生は皆、私のことも学んだことも覚えてくれていることと思います。また、看護学科の授業も講義と実習の一部を担当しています。これまで、17年間にわたり學生の様子を見てきているので、気質の変化には戸惑うこともあります。特に、最近はできるだけ効率的に単位だけとにかく取ればよいと考えている學生が増えてきているように感じます。今日の学ぶ量の多さを考えると仕方がない面はあるとは思いますが、少し、寂しく感じます。

私が医学教育を受けた時は、30年以上も前のことですが、その時の教育は教授を中心とする教員の講義が教育の基本でした。しかも、自分の研究を解説することが講義の中心で、學生の理解などは二の次、三の次といったものでした。それで、ポリクリと呼ばれていた臨床実習には血圧も測ったことがないのにいきなり患者の問診などをさせられ、冷や汗をかいたものでした。臨床実習も完全な見学型で、患者に触れての実践は卒後の医局任せといった形でした。その後、医学部内外からの改革の声は大きくなってきました。医学界は比較的早い段階で教育を改革する機運が高まり、カリキュラムの見直しが進みました。一つは教えるのではなく、自らが進んで

学ぶ今でいうアクティブ・ラーニングの導入です。本学でも早い段階からチュートリアル教育などの取り組みを始めました。これに相前後して、文部科学省主導で教養教育の再編も行われました。さらに、すべてのことを覚えることを目標とするものから焦点を絞り、生涯教育を見据えた医学教育モデル・コア・カリキュラムの制定とOSCEとCBTによる共用試験の導入は大きな変化でした。これに加えて、臨床実習の診療参加型への変化も挙げられます。

看護学教育に関してもモデル・コア・カリキュラムが導入され、現在大幅なカリキュラム改編を行っているところです。

このように現在の医学教育は私たちの時のものとは全く形を変えたものとなりました。医学・看護学の学修において、知識を得ることはその一部に過ぎないと言えます。得た知識を実際に応用する力、医療の現場で適切な態度で臨む力に加え、もちろん、医療や看護に必要な技術は必要不可欠なものです。旭川医科大学では入学直後から卒業までの間に、これらの力を育成できるカリキュラムを様々な形で展開しています。このために教育センターはカリキュラム部門、共用試験部門、臨床実習部門、チュートリアル教育部門、地域医療教育部門、授業評価・FD部門6部門で構成され、専任の佐藤教授、蒔田教授と井上講師を中心に活動しています。教育センターは計画を着実に実行し、反省点を次に生かす、いわゆるPDCAサイクルを回すことにより、教育の改善に努めています。

本当に今の學生は恵まれているなと思います。學生の皆さんは存分に学修の機会をとらえて、より良い医療職者や研究者となれるように努力していただきたいと願います。



働きがいのある職場の構築

病院長・副学長(医療・地域医療担当) 古川 博之

7月1日付で病院長を拝命しました古川博之です。これまで、病院執行部として病院長補佐を3年間、副院長を3年間勤めさせていただきました。この間、多額の負債の償還や、その後のNTT裁判にともなう賠償などの財政問題をかかえながらの綱渡りの病院経営でしたが、松野前院長ならびに平田前病院長の下、職員皆様の御協力もあり何とか切り抜けてきました。ようやく財政危機を脱して、人や設備に投資できる体制になりつつあり、これからが旭川医科大学病院の発展に向けた転換期と考えております。このような大事な時期に病院長を拝命したことに対して重責を感じており、身の引き締まる思いです。

今回、病院執行部としての補佐会議のメンバーも大きく更新され、副病院長として、原淵保明教授(事故防止・安全問題担当)、田崎嘉一教授(臨床倫理担当)、原口看護部長(事故防止・安全問題、患者サービス、ボランティア担当)、病院長補佐として東信良教授(国際連携担当)、竹川政範教授(外来担当)、大田哲生教授(コ・メディカル、地域連携担当)、國澤卓之教授(国際医療支援センター手術部計画担当)の計8名で構成されております。今後は、様々な課題を執行部全体として、あるいは、タスクフォースの力を借りて解決していきたいと考えております。

新しい執行部となつての最重要課題は「働きがいのある職場の構築」です。本年6月に働き方改革法案が国会を通過し、医療の現場におきましても5年の間に法案に沿った働き方改革を行う必要が出てきました。これまで慣例のように行われてきた医師が長時間休息なく働くことを強要する時代に終わりを告げなければなりません。しかしながら、北海道においては以前より医師不足が顕著化しております。当院でも外科、産婦人科、整形外科、泌尿器科など外科系ならびに救急科の医師不足が著明です。このことが医師個人への負担を大きくしており、超過勤務の上限である80時間以上を超える例があつたと断ちません。幸い、地域枠の学生をはじめとして地域医療に貢献した

いという多くの学生が、卒業後本学で研修を受けるようになっており、今後、次第に医師不足が緩和されることが期待されています。

しかしながら、医師が一人前になるには時間がかかります。それまでに、現在いる医師の負担軽減を図らなければなりません。これに対して、医師以外の人に医師の仕事を代行してもらうワークシフティングや医師の中で仕事を共有し分割するワークシェアリングなどを行っていく必要があります。医師のためのワークシフティングとして、特定機能看護師や診療看護師(ナース・プラクティショナー)の活用・育成によって医師の医療行為の一部を代行してもらいます。また、クラークによってカルテや退院サマリーの記載、診断書や紹介書の作成などを代行してもらうことも進めていきます。また、看護師についても看護助手やクラークによるワークシフティングを進めていく必要があると考えています。ワークシェアリングは複数主治医性やチーム医療によりシフト制をまもり、できるだけ勤務時間内に仕事が終わるよう進めていく方法です。また、主治医が時間通りに仕事を終えるためには、病状や手術の説明を時間内に終わらさねばならず、患者さんへの理解を得ることが必要となります。これらの改革のためには医療者側の意識はもちろん、患者側の意識も変えてもらう必要があるのです。

また、女性医師の活躍は医師不足を解消する意味でも、男女共同参画を推進する意味でも非常に重要であり、積極的な登用を行っていく必要があります。そのためには、二輪草センターが行っているような女性医師の支援、すなわち、女性の妊娠・出産・育児・復職に関するサポートを広げていく必要があると考えています。

以上、働きがいのある職場構築のための方策を述べてきましたが、これまでの危機を乗り越えた我々ですから、必ずや我々自身の働きやすい職場をつくるのが可能と考えております。皆様の御協力・ご支援よろしく御願いたします。



教授就任のご挨拶

旭川医科大学病院

病理部教授・病理診断科長 谷野 美智枝

平成30年5月1日付けで、旭川医科大学病院病理部教授、同17日に病理診断科長を拝命いたしました。私は、旭川市立緑が丘小学校、緑が丘中学校、旭川東高等学校を卒業し、平成5年に旭川医科大学(旭川医大)を卒業した地元民です。卒業後は、北海道大学(北大)第一内科に入局し内科医・呼吸器内科医として研鑽を積んだあと病理医に転向しました。臨床医としての自分が担当した患者様の病態に対する疑問に対し、その組織像、細胞像から明解な答えに導いてくれた「病理学」にすっかり魅了され、平成13年には一念発起し病理医としての道に進むことを決意しました。北大病院 病理部、北大 第二病理学講座(現:腫瘍病理学教室)での病理診断のトレーニングをスタートさせたのち、米国ワシントン大学への留学、帰国後は第二病理学講座に戻りました。このたび縁あって母校そして故郷である旭川に戻ることにになりましたこと大変喜んでおります。

私が武井教授と共に担当させていただくことになりました病理部ですが、その歴史を紐解いてみると、先人たちの大変なご努力で築き上げられてきた部門であることがわかりました。北海道の「臨床病理学」の原点は、私の前任地である北大 第二病理の大先輩である故下田晶久先生(北大25期、旭川医大三代目学長)です。先生は国立札幌病院(現北海道がんセンター)に臨床病理医として着任したのち、1973年(昭和48年)旭川医大開学と同時に第一病理学講座の初代教授として就任されました。1976年(昭和51年)附属病院開院と同時に検査部病理部門が開設され初代部長を下田先生が担当されました。同じく同門である高橋達郎先生(釧路労災病院元病理部長)も開設当時から、さらには村岡俊二先生(札幌厚生病院元病理部長)も年余にわたり旭川医科大学病院の病理診断を支えてこられたと伺っていますが、小人数での病理診断業務は大変な激務だったようです。下田先生が第一走者としての手に持ったバトンはその後三代川先生、故徳差先生など様々な先生たちを中継し現在に至っております。病院での診療の要である「病理診断」への情熱、そのバトンに課せられた責任の重さと伝統に改めて背筋が伸びる思いでおります。

大学教授としての責務は「臨床(診断)」、「教育」、「研究」でございます。近年、「診断」においては、形態に基づく「病理・細胞診断」から遺伝子情報を統合した「分子病理・細胞診断」が求められています。次世代シーケンスを用いた網羅的遺伝子解析、そし

てその情報に基づく治療(プレジジョンメディスン・精密医療)へと医療の流れがシフトしてきております。現在の形態に基づく診断基盤に加え、新しいニーズに応えられるような遺伝子病理診断、バイオバンク機能を持ち合わせた病理部を作り、高い医療の一端を担うこと、さらには、旭川医大が誇る遠隔医療ネットワークを基盤に、デジタルパソロジーを利用して北海道内外の遠隔医療、国際医療にも貢献していきたいと考えます。「教育」では、学部学生には病理診断のプロセスを学んでもらうとともに病理解剖を担当し見学してもらっています。全国的に「病理医不足」が叫ばれる中、積極的に基礎講座の実習や講義に参加させていただき、臨床病理診断学の面白さ、醍醐味を伝えるとともに、新しい知見を得るための病理基礎研究の重要性・必要性さらには楽しさを伝え、学生たちに臨床科としての「病理学」あるいは学問としての「病理学」に興味を持ってもらえるよう心がけております。病理学はどの診療科に進むにしても重要な知識であり、自分が相手とする「病気」がどのような「顔つき」でどのような「性質」を持っているのか、直接的指導あるいはSNSなどを用いた間接的手段を利用し、かつて私が感じた臨床一病理像との比較を通して感じた「病理学」の奥深さ・面白さを共有し次世代の病理医を育成したいと考えています。

「研究」では、非腫瘍性疾患、特に専門であり難治性疾患の代表である間質性肺炎及び肺高血圧症においても個別化医療の実現を目指し、形態・遺伝子・蛋白発現を合わせた新分子病理分類の確立し次世代の医療に貢献したいと考えております。また、臨床と基礎の中間的立場、強みをいかし学内の臨床各講座、基礎講座との密な連携のもと様々な形で共同研究を行い新しい知見を出していく旭川医大チームの原動力の一翼を担いたいと思っています。日々の忙しい業務の中で研究を推進することはそう簡単ではないと思いますが、その努力は患者様たちの希望や未来につながると信じています。

赴任後はアツという間の4か月でしたが、ようやく仕事に慣れペースがつかめるようになってきました。大学には小、中学、高校、大学の同期が複数いてそれぞれの分野で活躍しており大変心強く思っています。私の医師人生の礎であり特別で大切な母校である旭川医大、旭川医大病院の益々の発展のため一生懸命努力したいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

教育研究推進センター

センター長・教授 松本成史

平成30年6月21日付で教育研究推進センター教授を拝命しました、^{まつもと せいじ}松本成史でございます。以後、宜しくお願い申し上げます。

私は大阪生まれの大阪育ちで、平成6年に近畿大学医学部を卒業し、近畿大学医学部泌尿器科学教室に入局後、泌尿器科の臨床・研究に従事し、平成13年から米国ニューヨーク州アルバニー医科大学、アルバニー薬科大学に研究留学後、平成15年から近畿大学医学部泌尿器科学教室・講師を経て、平成22年から旭川医科大学医学部腎泌尿器外科学講座・講師に赴任しました。平成28年からは旭川医科大学病院臨床研究支援センター・副センター長/准教授として、同年に新設された旭川医科大学インスティテューショナル・リサーチ室・室長として、教育、研究や組織運営等に従事して来ました。

研究面においては、下部尿路機能障害、性機能障害に関する基礎・臨床研究を主に扱って来ました。特に旭川医科大学赴任後は、イノベーションを自身のテーマにして、以前からの研究に加え、医工学・新規医療機器開発にも積極的に取り組んでおります。「橋渡し研究；トランスレーションリサーチ」と呼ばれる基礎研究から臨床現場への応用実用化する幅広い研究に関わり、「死の谷」と呼ばれる研究費獲得や実用化までのPMDA等とのやり取りの難しさも経験しました。これらの研究成果や経験は、今後も継続しながら、教育や指導に役立てたいと思っております。

教育研究推進センターは、(1) 教育研究支援部、(2) 技術支援部、(3) 知的財産支援部の3部門より構成され、本学の革新的シーズの発掘から未来医療実現までをシーム

レスにサポートするセンターとして平成23年に設置されました。本学の基礎研究を支援・推進する技術支援部には、実験実習機器技術支援部門や動物実験技術支援部門、放射性同位元素技術支援部門があり、本学の研究者の先生方の積極的な利活用をお待ちしております。実験実習機器センターの改修は一段落しましたが、今後の数年間は動物実験施設の新営・改修で皆様にはご迷惑をお掛けしますと同時にご協力をお願い申し上げます。

本学の基礎研究から得られた成果をシーズとして発掘し、知的財産支援部にて知財確保や産官学連携を支援・推進しておりますし、研究者教育や臨床応用・実用化への橋渡し研究戦略を教育研究支援部で行っております。教育研究支援部および知的財産支援部は、北海道3医育大学（北海道大学、札幌医科大学および本学）で設立された「北海道臨床開発機構（HTR）」との連携窓口として、日本医療研究開発機構（AMED）の案件等に対応しており、基礎研究で生まれたシーズを臨床研究へと導き、病院臨床研究支援センターと共に未来医療実現のために支援・推進しております。

このように、教育研究推進センターの役割は、研究者であられる先生方を主演とするならば、その主演者がより究められ輝けるように、ある意味、監督や脚本の部分から裏方の部分まで包括的にサポートさせて頂く部署で、各科・各部門の皆様と協働の上で成り立っています。旭川医科大学の研究発展のため、微力ではございますが、誠心誠意努力致しますので、皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

旭川医科大学に入学してもう4か月

医学科第1学年 秋田谷 悠 佑



私が旭川医科大学に入学して4か月が経とうとしています。入学当初は高校の生活と大きく異なっていて大変だ、ちゃんと生活していけるかなと心配だったのですが、いまではそのようなことを考えるのは少なくなり、なんとなく大学の生活に慣れてきたのかなと感じます。大学での学習は内容が多く、たくさんの時間を必要としますが、それがとても楽しいのです。

1年生の学習は、医学を直接学ぶのではなく、医学の根底にある生物学を中心に、化学、物理学、心理学などを学びます。生物学や化学では、高校の時は「これは暗記しなさい」と言われ、頭に叩き込んだ内容を新しい概念を学ぶことで、「ああ、そうだったのか」と納得できる内容の連続です。既知のものと未知のものがある一点で結びつく時の感動を毎日のように感じることが出来ます。

もちろん、医科大学なので、医療系の科目も

あります。「医療概論」では、なぜ人は人をケアするのかなどといったような哲学のような内容から医学を考えていきます。「地域医療学」ではこの大学の特色である、地域医療の本当の姿をそこで第1線で活躍している先生の話聞くことができます。その様子はテレビなどで取り上げられる「地域医療」とは大いに異なり、いかに私達が地域医療に対して無知であったかを教えてくれる講義です。5月中旬～下旬に行われた「早期体験実習Ⅰ」では、旭川近辺の病院や介護施設を見学して、医療現場に触れることができます。私自身、病院には数えきれないほど何回もかかっていますが、医療従事者側の視点から病院を眺めてみることで、新たな刺激にもなりましたし、今後の学習に対するモチベーションにもなりました。

これらの学習は、はっきり言うと大変忙しいのですが、友人と一緒に学習したり、先生方に質問したりして、理解を深めています。これからも新たな刺激を求めて頑張っていきます。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 岡 ひなた



雪とともに迎えた春の入学式。思っていた以上に医学部は忙しく、不慣れな状態で始まった実習やテスト、日々の課題に追われているうちにあっという間に夏になりました。単科医大ということもあって、全校の人数がそれほど多くないため、各分野の教授が丁寧に質問に答えてくださったり、レポートの添削を行ってくださったりするのが本当にありがたいです。また、同じ志を持った仲間と助け合いながら勉強できるため、互いに切磋琢磨することができて非常に充実した日々を過ごしています。

入学してからの4か月間で私が一番有意義な時間を過ごせたと感じたのは、早期体験実習でした。これは、旭川医科大学ならではのもので、入学して2か月も経たない頃に実際に病院に行き実習をさせていただきます。患者さんの

ことを考えながら処置や検査を行う医師や看護師の皆さんを近くで見て、患者さんに対する真摯な思いを感じることができました。1年生の講義はどうしても基礎的な内容が多くなってしまい、医師への道のりがとても長いものを感じられます。その中で、現場の空気を体感することができたことで、今後の学習意欲が掻き立てられました。また、人間関係の構築の大切さも感じました。医療は患者さんとのコミュニケーションはもちろんのこと、多職種同士の連携によって成り立っていました。

私は実習を経て、本学での学びを通して、医師として必要な知識と思いやりの心を身につけるとともに積極的な人間関係の構築に努めたいと考えています。幸い、学ぶ機会も環境も十分すぎるくらい整っています。まだまだ大学生活は始まったばかりですが、勉強と部活に精一杯励み、良き医師になれるように生活していきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 佐藤進之介



旭川医科大学に入学してから3か月が経ちました。毎日テストやレポートに追われ、新生歓迎週間、早期体験実習、医大祭といった行事がたくさんあり、いつの間にか3か月が経ってしまったと感じられる充実した生活を送ってきました。

大学に入学して最初に驚いたことは、講義です。高校や予備校の授業とは全く異なります。ある分野を専門的に研究してきた先生の授業はいつも話が興味深く、より深い知識を学びたくなります。また、地域医療学という講義では、実際に地域医療の最前線で活躍されている医師が講義をしてくれます。今まで私たちが想像していた地域医療は実際とは全く違うのだと分かり、将来どう言う医師になるべきなのかということ考えることができます。どの授業も将来医師として働くときに必要となってくる土台となるので、旭川医科大学で学べることをうれしく思います。

また、大学に入学して感じたことは、学生は自主的な行動が求められているということです。高校までのように先生に言われたからするのではなく、自分たちで進んで課題を発見し、研究しようと思う心が求められています。例えば、早期体験実習という、病院や介護施設で実際に医療の現場を見学する行事では、実習の前に自分たちで目標を考え、実習後には班ごとに目標に対する達成度などを報告する報告会があります。また、普段の勉強でも自主的に動かなければなりません。大学には問題集がなかったので、テスト勉強をどうやってやればいいのかわからなかったです。しかし、講義で学んだことの課題点を見つけ、周りの友人と意見を交換して知識を深めたり、自分たちで要点をまとめることが大切だと分かってきました。

まだ、入学したばかりなので、どんな科に進み、どこで働く医師になるかわかりませんが、これからの講義、実習、講演会を通して将来のビジョンを時間をかけて確立したいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 英芳和



旭川医科大学に入学してあっという間に3か月が過ぎ、大変だった中間試験も終わり夏休みまで残すところあとわずかになりました。入試前に初めてこの旭川を訪れた時には、目の前に広がる一面の雪と身体を刺すような冷たい風に「大変なところに来てしまったなあ」と不安でいっぱいでしたが、近頃は「キョクトウ」「サツキタ」といった道内の用語が理解できるようになったり、校内の移動で迷うことも少なくなったりと、すっかり旭川医大の水に慣れたのかなと感じています。

これまでの1年生の講義では、まだ医療に直接かかわる内容を扱うことは少ないのですが、早期体験実習では医療や介護の現場の空気を肌で感じ、また部活動では南富良野町の小学生に健康教育を行ったり、学園祭で一般来場された方にBLS講習会を行ったりと、将来医師として働く際に生きてくるであろう経験をたくさん積

むことができました。特に健康教育とBLS講習会に関しては、自分の知識や考えをわかりやすく人に伝えるということが、自分自身の課題でもあると感じているので、これからもこのような経験を重ねることで改善していきたいと考えています。

そんな旭川医大での学生生活で私が最も印象に残ったのは同期の友人たちの勉強への熱意です。多くの学生が先生のもとへ集まり質問をしている光景には、驚くと同時に自分ももっと頑張らなければいけないという気持ちになります。また初めての定期試験である中間試験に向けて1か月も前から放課後や休日に自主的に集まり、お互いが得意な科目を教え合う勉強会にはずいぶんと助けられました。

旭川医科大学での最初の3か月は、本当に充実した日々を過ごすことができました。これから卒業までの6年間で龍頭蛇尾となってしまぬよう、同期たちと切磋琢磨しながらより一層、学業に部活にと励んでいきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 山形美月



私は、北海道には地域間に「医療格差」があると思います。住んでいる周辺に医療機関がない、医療関係者がいない、など医療から遠ざけられている地域が今もなおあると思います。私は、「求められる場所で、求められる人材となり、やりがいのある仕事を人のためにしたい」と思っていました。そこで高校生活での経験などを通して「北海道で地域医療に従事する人の「命」を守る仕事である医師になりたい」という将来の夢を持って、北海道の地域医療に力を入れている旭川医科大学で学ぶことにあこがれ、受験しました。

憧れだった旭川医科大学に入学することができてから、早くも3か月がたちました。私にとって、この大学での毎日はとても刺激的です。講義では、特に地域医療学の講座が、北海道の地域医療に実際に従事している先生方からのお話を直接伺うことができ、直接聞いてこそわかる

ことの大きさを実感しています。また話を伺うことで改めて自分の中で地域医療についての考えを深めることができ、将来北海道の地域医療に従事したいという思いがさらに強まっています。今年、早期体験実習として介護老人保健施設を見学させていただき、介護現場での医療を学ぶことができましたが、2年生になると地域医療を学ぶことができると先輩方から伺い、将来の目標像を見ることができるとは思いません。今からとても楽しみにしています。

旭川医科大学では部活動も盛んにおこなわれていると伺っていたので、私も競技スキー部に入部し、毎日楽しく練習に参加しています。部活動の仲間と集まって、部活だけでなく勉強などもともに取り組んでいます。部活動の人間関係を通して、社会的スキルも身につけていきたいと思っています。

私の「夢」を「目標」に変えてくれた旭川医科大学で、6年間という期間をかけて、医師になるために学びを深めていけることが、今からとても楽しみです。

医学生として地域と向き合うこと

医学科第2学年 上野裕生



この春に編入生として旭川医科大学に入学し、久々の学生生活、慣れない実習講義、見知らぬ土地に戸惑いながら3か月を過ごしてきました。毎日が新たな出会いと発見に満ち、刺激的な日々を過ごしています。

私は昨年度まで地方公務員として、スポーツ行政や税務の分野で勤務してきました。マクロな視点から地域を捉える仕事の中で、もっと人に寄り添った働き方がしたいという思いを持ち、医学部進学を志しました。全国の大学を受験する中で、「臨床に携わりながら、現場目線で政策形成に貢献したい」という思いを伝えてきましたが、「政策形成は行政でやってください」とはねつけられ、「医師の仕事は病院で患者さんを待つことです」と門前払いをされました。その中で本学に入学できたことには意味があると感じています。

そう感じたのが前期の早期体験実習Ⅱという

講義で、この講義は学生がグループを組んで調査計画を作り、地域の医療機関へのフィールドワークを行い、地域の課題抽出・解決策提案に取り組むというものでした。私は上川北部において調査を行い、病院で勤務する医師や保健所の職員、訪問看護ステーションの責任者の方々にお話を伺い、地域医療の現場を肌で感じてきました。訪問先で出会う医師の先生方は、誰もがその地域や病院で診療を行う意義・役割を認識しており、一つ一つの言葉に重みがありました。そして、共に調査に参加した7名のメンバーも、そのような先生方との出会いから多くを感じているようでした。

一回り近く違う同級生達は、時に真剣、時に奔放ですが、ここぞという場面で見せる感性の鋭さにはいつも驚かされてばかりです。そんな仲間達とともに学べる楽しさを大切にしながら、初心を忘れず、地域の人々と関わり、地域と向き合い、自分の役割を探していきたいと考えています。諸先輩方にはご指導のほどよろしくお願いいたします。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 大村 帆乃



旭川医科大学に入学してから、もう3か月が経ちました。入学式に始まり、新歓合宿、早期体験実習、医大祭とあっという間に時間が過ぎていったように感じます。

入学してすぐは、大学の勉強についていけるのか、同期とは仲良くなれるのか、一人で生活していけるのかなど、不安でした。ですが本格的に講義が始まると、内容を理解したり、たくさんの課題を行ったりするのに必死で、慌ただしく毎日が過ぎていきました。講義では暗記すればよいというものではなく、根拠を示し、理解することが求められます。先生にこう言われたからこうするのではなく、自分から能動的に学習する姿勢が重要だと思っています。講義だけでなく看護技術の演習を行うことも、私にとっては新鮮でした。看護職につくうえで基本となることばかりで、看護学生としての自覚をもって取り組んでいます。

毎日過ごしていく中で少しずつ友人も増え、部活などで先輩方との人間関係も広がっていったと思います。課題で行き詰まったり、わからないところがあったりすると、同期が助けてくれたり、自分がわかるところは教えたりしています。同じ目標を持った仲間と切磋琢磨し合える環境は、自分の成長につながっていると思います。不安なことがあったときは、先輩方も親身になって相談ののってくれます。自分よりもたくさんの経験をされている先輩方のアドバイスは参考になるものが多く、いつも助けられています。旭川医科大学に来て、改めて人とのつながりの大切さを感じています。

3か月が経ち、忙しい毎日ではありますが、充実した日々を送れています。大学生活はまだ続きますが、入学してからの3か月のように、あっという間に過ぎていってしまうと思います。なんとなく過ごすのではなく、ひとつひとつの物事に丁寧に取り組み、自分のものにできるように努力を重ねていきたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 後藤 僚汰



旭川医科大学に入学して約4か月が経ちました。新歓合宿や早期体験実習、医大祭など様々な行事があったという間に過ぎていき、大学生として学ぶことが出来る時間はとても貴重な時間だということを感じた4か月でした。

大学生活は、朝から夕方まで講義を受け、バイトや部活動に励みながらも大量の課題をこなすという慌ただしいものです。特に高校生の時には無かったレポート課題には未だに不慣れで、日々苦戦しています。また旭川医科大学では1年生のころから看護技術を学ぶ時間があり、1つの看護技術を習得するために演習の時間だけでなく放課後も練習しています。以上のことを踏まえると、大学生活はとても辛いもので耐え難いものだと思うかもしれませんが、そんなことはありません。なぜなら、同じ辛さを共有

できる友人や先輩がいるからです。友人とはグループ学習で意見交換をし、講義の最後に全員の前で発表をすることがあります。そして看護技術を学ぶ際にはお互いに観察しアドバイスをしています。また先輩からは講義やテストを受ける際の助言も多く頂き、そのおかげで何をすればよいのか分からず不安を抱えていた多くの1年生の心に余裕ができました。夏休み明けには旭川医科大学病院での基礎看護学実習があります。初めての本格的な実習で大変なことばかりだと思いますが、先輩から助言を頂いたり友人と協力したりしながら多くのことを吸収していきたいと思っています。

最後に、冒頭にも述べましたが入学してからの4か月が瞬く間に過ぎていったように大学生活もすぐに終わってしまうでしょう。短い期間でより多くのことを学び、それぞれが思い描く理想の看護師になれるように友人と助け合いながら努力したいと思っています。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 舘 美頼衣



旭川医科大学に入学して、早くも四か月が経ちました。初めての一人暮らし、勉強、新しい仲間、何から何まで今までとは違って、時間の経過が非常に早く感じられました。一人暮らしを始めてから、勉強以外にも家事や食事、家計のことについて考えなければなりません。その点で実家暮らしであった今までとは違い、はじめは生活が乱れてしまいましたが、少しずつ生活にも慣れてきたと感じます。また、高校とは違って大学は自主的な学習が必要となります。ただ授業を聞いているだけではすぐに置いて行かれてしまいます。私たち大学生には常に自分がすべきことを考え、計画的に勉強することが必要だと痛感しました。

私は、この四か月で様々なことを学びました。早期体験実習Ⅰでは、今まで漠然としたイメージしかもっていなかった、医療従事者として働くということが明確なものになりました。技術

学の演習では、臨床での看護を想定しながら演習を行うため、技術の習得に向けての看護の勉強へのモチベーションが高まっていくのを感じます。普段の勉強は、どのように勉強すればよいのかまだ手探りな状況ではありますが、これからの期末試験や、最終的な目標のひとつである国家試験の合格に向けて、コツコツと勉強する癖をつけていきたいと思います。課題やレポートの量は多く、日々時間に追われることもあります。生活の中でうまく時間を使うことが少しずつ出来るようになってきたと感じます。また、部活動に入ったことで、練習やイベントなど仲間と充実した時間を共有することができ、大学生活がより楽しいものになりました。

これから、ますます忙しい日々が続くと思います。しかし、目標を持つことで将来への道を見続けることができると思います。自ら学ぶ姿勢を大切にしながら一つ一つの学習を進めていきたいです。

平成30年度入学式を挙りました

平成30年度入学式が4月6日（金）10時30分から本学体育館において行われ、新入生やご家族の方々など、本学関係者を含め約500名が参加しました。

入学式では、今春の学位記授与式と同様に、会場内左右に大型スクリーンが配置され、やや緊張した面持ちの新入生の様子が投影されました。国歌演奏に続いて、新入生一人ひとりの名前が読み上げられ、医学科107名、医学科第2年次編入学10名、看護学科60名の併せて177名が入学を許可されました。

続いて、入学生を代表して医学科 青木 貴寛さんによる宣誓が行われ、新入生それぞれが医療職者を目指す者としての決意を胸に刻み、大学生活の一步を踏み出しました。



▲学長からの歓迎挨拶
(代読：松野丈夫 理事・副学長)



▲入学式の様子



▲入学生宣誓

平成30年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成30年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月9日（月）、10日（火）の二日間にわたり実施されました。

一日目は、まず看護学科棟大講義室に集合し、機能強化担当学長補佐の千石一雄教授からご挨拶があり、オリエンテーションが行われました。その後、「旭川医科大学が重視する地域医療について」と題した全体ガイダンスが地域医療教育学講座 野津司准教授により行われ、先生ご自身の体験談を交えながらの北海道の地域医療に関するお話に、新入生たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、医学科、看護学科に分かれたガイダンスがあり、医学科では、学年担当の高橋雅治教授、教育センター副センター長の蒔田芳男教授、そして入学センター副センター長の坂本尚志教授から「最近の医師はどのように育てられているか」といったカリキュラム等の説明がありました。そして、看護学科では、学年担当の及川賢輔教授、看護学講座の服部ユカリ教授、藤井智子教授、伊藤幸子教授、一條明美准教授から、看護学科での『学び方』や保健師課程や助産師課程のカリキュラム等についてガイダンスが行われました。

午後からは、NHK旭川放送局より、視聴者の方々が撮影した災害や事故などの映像や写真を投稿してもらったインターネット上のサイト「NHKスクープBOX」の紹介等がありました。続いて、内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）澤田康司講師（学内）による「お酒 正しいつきあい方と命を守る正しい対応方法」では、相次ぐ大学生による飲酒事項を防ぐための知識を学びました。

二日目は、「これだけは知っておきたい！ マナーの基本」と題して、リフレイム代表の河野恵美講師による講演が行われ、大学生として身に付けるべきマナーについて学びまし

た。引き続き、メンタルヘルス担当学長補佐の千葉茂教授から、「睡眠とメンタルヘルス」と題した講演が行われ、睡眠の重要性についてお話しいただきました。講演後も、新入生から積極的な質問が交わされ、学生達の関心の高さが感じられました。

午後からはグループ毎に分かれて、救急医学講座 藤田智教授と名寄市立病院 山巻多先生のご指導のもと、心臓マッサージなどの救急蘇生実習を行いました。各グループには、本学卒業生を含む研修医の先生方にもついでいただき、1人ずつ心肺蘇生キット「あっぱくん」を使用しながら、心肺蘇生の知識・技術を学びました。

一方、北海道労働局の講師による「知って役立つ労働法（アルバイトを始める前に）」では、ブラックアルバイトから身を守る方法を学び、続いて、カルト団体や薬物防止の最前線で任務にあっている旭川東警察署の警察官から、オウム真理教や危険ドラッグの危険性についてご講演いただきました。

最後に、保健管理センターの藤尾美登世保健師からは、「健康な学生生活を送るには一ほけかんとどう付き合うか」と題し、保健管理センターの利用方法等についてお話がありました。

二日間ではありましたが、内容の濃い有意義な研修会となりました。



▲オリエンテーション



▲救急蘇生実習



▲マナー講習



▲熱心に聴く受講生

学生海外留学助成金制度を利用して

医学科第3学年 小山 光 眞



この度私は学生海外留学助成金制度（以下本制度）を利用させていただき、『海外ビジネス武者修行プログラム』（以下武者修行）に参加してきました。武者修行で行ったことは、配属される店舗において2週間にわたり新商品開

発やプロモーションなどを企画、検証するというものです（私は新商品の開発を行いました）。このように書けば簡単な内容に感じられますが、内容はとてもハードなものでした。

武者修行はベトナムの世界遺産都市ホイアンで行われます。ビジネスを成功させるために、お店を運営している現地スタッフとの関係をつくり、店舗の現状を徹底的に分析することから始まりました。ホイアンは欧米の観光客がとて多いまちで、僕らのビジネスターゲットは彼らでした。彼らのニーズを知るためにアンケート調査を行い、企画した新商品を実現するために現地のベトナム人に対し交渉・発注などをしました。実際に商品が売れるか、その損益は継

続性を保つかなどの検証を踏まえた上で、その企画を通すために会社の社長相手にプレゼンテーションなども行いました。

以上から想像ができるかもしれませんが、武者修行は試練にぶち当たる毎日でした。ビジネスどころか簡単なコミュニケーションにさえ大きな言語の壁を感じ、ただ無力感がつのりだけでした。また、ベトナムでは発注したものが期限内に届かない、停電が起こるなどのハプニングが多々あり、なかなか物事がうまく進みません。

このように多々ある壁の中でも最も乗り越えるのが難しかったのがチームで最大の力を発揮するというものでした。最高を目指すからこそぶつかり合う意見・人を動かす感情の伝え方、様々な難題に挑まなければなりませんでした。

武者修行で得たことはたくさんありますが、これらはビジネスだけでなく人生を生きていく上で価値あるものだと確信しています。このような経験を出来たのは本制度に支援していただいたためであります。本当にありがとうございます。

学生海外留学助成制度を利用して

医学科第5学年 田中 真 緒



医学留学プログラムelectiveを通じて3月12日から4月6日の4週間、カナダのモントリオールにあるMcGill大学Montreal Neurological Institute and Hospitalにて脳外科の臨床実習に参加しました。医療現場で使用される英

語力を伸ばし、日本とは異なる医療現場を経験し視野を広げるため学生の中に海外の臨床現場を見てみたいという思いでこのプログラムに応募しました。今回訪問したMontreal Neurological Institute and Hospitalはホームクルスの脳地図を作製したことで知られるDr.Penfieldがいらした施設で、歴史があり脳外科に特化していて複雑な症例が集まるだけではなく研究施設も併設していました。

実習ではクリニックにて外来見学、ICU回診、手術見学を主に行いました。モントリオールにあるケベック州はフランス語が公用語で学校などでは英語で授業が行われるために英語とフランス語が飛び交いながら、ICU回診では身体所見の取

り方、バイタルの見方、ドレーナージの管理の仕方などを現地の医師や研修医、看護師の方にも教えていただきました。手術見学では手術室に入り脳動脈瘤のクリッピング術や救急患者の減圧術を見学するだけでなく実際に手洗いをして術野に入り助手をする機会もありました。自分の英語能力が不十分にもかかわらずこの実習中、メンターを務めてくださったDr.Loをはじめとする先生方、スタッフの方々にとっても親切にいただきました。

英語、時にはフランス語で難しい脳疾患症例を診たこの実習は一日一日すべてが私にとってとても貴重で、有意義で、触発される日々でした。留学が終わった今も心を鼓舞してくれた先生方を、手術でよくなった患者さん方を、手術することもできず亡くなってしまった患者さん方の姿を思い出します。今回の実習は医師としてだけでなく人として今後の成長の糧となる素晴らしい経験であったと信じて、これからも精進していこうと思います。最後に留学の準備を助けてくださった方々、今回の留学を支持してくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

アメリカで学んだこと

医学科第5学年 桑原 沙弥佳



この度、3月17日から4月1日迄の期間で、米国ペンシルベニア州PittsburghにあるUniversity of Pittsburgh Medical Centerの2つの施設にて移植医療を学ぶ機会をいただきました。留学を希望した理由は、移植医療が日々行われている世界トップレベルの現場

を自分の目で見てみたかった事と米国の医療体制を学び、日本との“ちがひ”を体感して視野を広げたかったからです。

留学期間中は、外来および手術見学など非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。慣れない土地で慣れない言語、時差ボケに、方向音痴。はじめは右も左も分からない状況でしたが、各国から学びに来ている医師たち、とってもフレンドリーな現地の方々がたくさん支えていただきながら毎日充実した学びを得ることができました。

現地でよく、「日本人はどうして臓器提供に抵抗があるのか？」と聞かれました。臓器提供をするということには倫理面、個々人の考え方、国民性など様々なエレメントが複雑に絡みあっているように思います。米国では日本ほど、この“複雑さ”は感じられませんでした。しかし、“複雑さ”が無い方がいいというわけではない

と思います。むしろこの“複雑さ”に一人一人がもっと真摯に向き合い自分なりの答えを導いて、それをしっかりとくみとっていくことこそ、尊い命に向き合うことに繋がるのではないのでしょうか。

この度の留学では移植分野に限らずいろいろなことを考えました。最も感じたことはやはり国民性の違いです。そしてこの国民性から独特のアイデアが生まれ、米国の医療システムが構築されてきたのではないかと思います。医療チームの中での連携の仕方、各役職の負担が大きくなるようにうまく分担する方法など米国医療の中には沢山の画期的な工夫があるように感じました。それと同時に、日本の医療の優れている点にも沢山気づくことができました。今後、日本においてより良い医療システムを構築していくうえで、日本の国民性にうまく合わせながら外の世界の良い点を取り入れていくことも有効ではないかと考えました。

今回の留学で、ここに書ききれないほど沢山のことを学び、感じ、経験することができました。また、沢山の素敵な出会いにも恵まれました。最後になりますが、ご寄付によりご支援いただいた皆様をはじめ、このような大変貴重な機会を与えてくださり、留学中も終始支え続けてくださったすべての皆さまに心より深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

学生海外留学助成制度を利用して

看護学科第3学年 修実 夏



私は2018年3月の2週間、ベトナムのダナンにおいて、「海外ビジネス武者修行プログラム」に参加し、インターンシップ生として新規事業の企画を行うという体験をしました。私が所属しているサークルはMed-Eduなどの

医療系学生団体ばかりで、医療以外の分野においても自分の見聞を広めたいという思いがあり、参加を決めました。

このプログラムで得た最も大きな気付きは、ビジネスもまたチームで行うものであるということです。「チーム医療」はすでに教育・臨床の場で浸透していますが、ビジネスにおいては個人戦というようなイメージをこれまで抱いていました。しかし実践してみると、チーム内のメンバー、インターン先の店舗で働くスタッフ方やマネージャー等との密なコミュニケーションがいかに重要であるかを感じました。異なるバックグラウンドを持つメンバーと企画の詳細を話し合い進めていくことや、店舗運営の方向性や

理想とする店舗像などについてマネージャーと共通認識を得ていく過程は、慣れないということもあり時間がかかり大変でした。しかし、意思疎通が取れていないと、そこから作り出される企画はまとまりがなく完成度の低い企画になる実感が確かにあり、チーム内でとことん話し合い、納得しながら進めていくことの重要性を感じました。2週間という短い時間の中で納得のいく企画を完成させることは難しかったです。平均在院日数が2週間を切るという中で目の前にいる患者ができる限り最善の形で退院できるように支援を行う看護職と似たものを感じました。限られた時間の中で、チームで何かを作り上げる・提供するという事は、看護師になっても重要なテーマであると考えます。チームビルディングさらには将来の自己像について考え直す機会になり、より一層自分を磨こうと思えた体験でした。

最後になりましたが、この貴重な経験を得るにあたり、学生海外留学助成事業によるご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

医大祭2018「医子奮迅」を終えて

第44回旭川医科大学医大祭実行委員会 委員長 大 武 志 帆

6月に行われました、旭川医科大学医大祭にて実行委員長を務めました大武志帆と申します。第44回旭川医科大学医大祭「医子奮迅」が無事に終了いたしましたことを報告させていただきます。医大祭を運営するにあたりまして協力して下さった関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

今年度のテーマ「医子奮迅」には私達実行委員会の医大祭への願いが込められています。獅子が奮い立って暴れまわるように勢いの盛んなことを意味する四字熟語「獅子奮迅」をもとに、医大生を中心に大盛況の医大祭を実現させようとするこのテーマを設定いたしました。テーマ設定から医大祭まで約7ヶ月の準備期間をかけてきましたが、当日は天候に恵まれ、多くの来場者に満足していただけたかと思えます。

目玉の催し物の一つ、講演会ではクロスフィットトレーナーのAYAさんをお招きしました。講演会は例年とは異なりトークショー形式で行いました。ゲストのAYAさんとトップアスリートである本学の学生3名との対談、AYAさんによるフィットネスの実演と指導など今までになかった企画を用意し、またその翌日には内科学講座の太田 嗣人教授による講演会「糖尿病医療の最前線」を開きました。医学を学ぶ学生だけでなく、市民の方々にとっても関心の高い身近な生活習慣病について分かりやすく説明していただきました。開催前から問い合わせも多く、大盛況の講座でした。

同日の午後にはお笑いライブを開催しました。今年度はチケットの売れ行きが大変好調で、体育館が観客でいっぱいになりました。お招きした芸人さん4組と一緒に会場全体が大きく盛り上がりました。

他にもエコーなどの医療体験ができる医学展や各部活が中心の模擬店、市民の方々に協力いただいているフリーマーケット、青空市、参加者の関心が高い花火、ビンゴなど多くありましたが、準備した企画全てにおいて大きなトラブルもなく、沢山の方に足を運んでいただきました。このような形で医大祭を終えられたのも、全学生、医学科看護学科両同窓会、学生支援課を始めとした教職員の方々、そして地域の皆様のご協力があったことですので。誠にありがとうございました。来年度も変わらぬご支援のほどよろしくおねがいします。

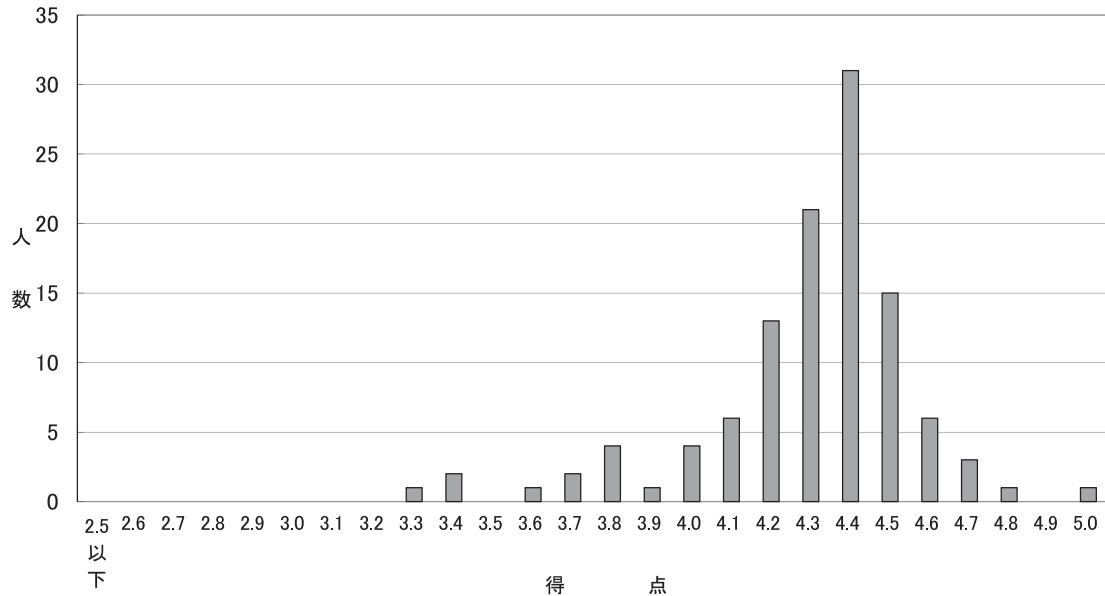




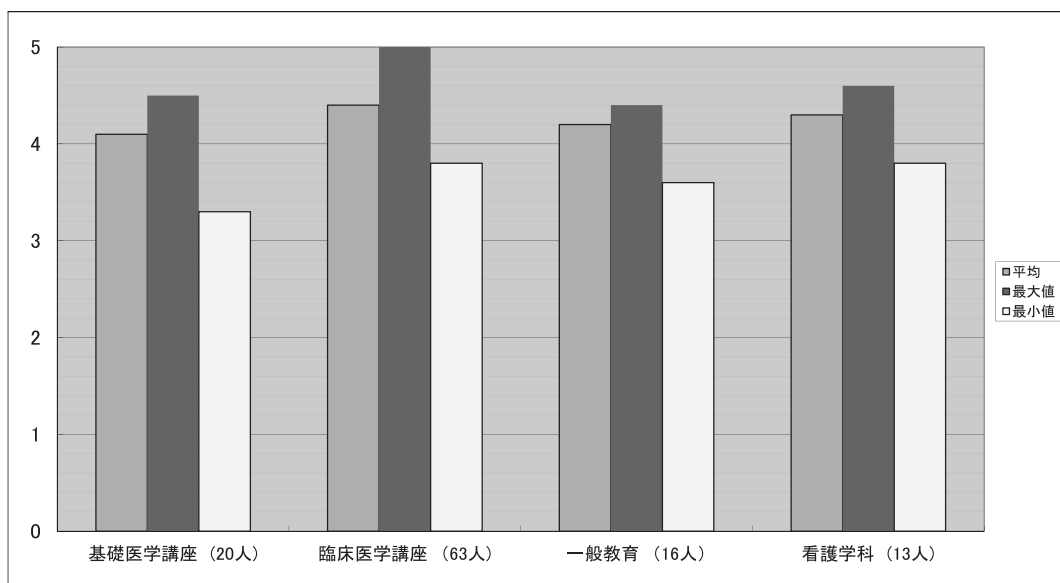
平成29年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

| 得点 | | 2.6 | 2.7 | 2.8 | 2.9 | 3.0 | 3.1 | 3.2 | 3.3 | 3.4 | 3.5 | 3.6 | 3.7 | 3.8 | 3.9 | 4.0 | 4.1 | 4.2 | 4.3 | 4.4 | 4.5 | 4.6 | 4.7 | 4.8 | 4.9 | 5.0 |
|----|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人数 | | | | | | | | | 1 | 2 | | 1 | 2 | 4 | 1 | 4 | 6 | 13 | 21 | 31 | 15 | 6 | 3 | 1 | | 1 |

(実施人数112・平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

| | |
|--------------|---------------------------------|
| あなたの履習態度について | 問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 |
| | 問2 授業に毎回出席しましたか。 |
| | 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 |
| | 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。 |
| 目的の達成 | 問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。 |
| 科目内容 | 問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。 |
| | 問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。 |
| 総合評価 | 問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。 |

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：医学英語 I A (医学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：111 配付数：111 回収数：111 回収率：100.0%

*評価結果(平均)

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
| 3.0 | 4.2 | 4.0 | 3.0 | 3.8 | 3.8 | 3.6 | 3.9 |

*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

学生は授業の演習に熱心に取り組んでいました。語学という性質上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。演習で取り上げたテーマに関連するものをこちらからもう少し提示しても良かったと思っています。この点に関しては教員と学生との両方の課題であると評価の結果から感じています。来年度以降も読解力を中心とした英語力を高めることを期待しています。

科目名：医学英語 I B (医学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：112 配付数：98 回収数：97 回収率：99.0%

*評価結果(平均)

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
| 3.1 | 4.2 | 4.2 | 3.4 | 3.9 | 4.0 | 4.0 | 4.2 |

*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

The first year medical students this year impressed me with their enthusiasm for English. As future doctors they will need a command of English in order to work in an increasingly global society. Doctors need not only the fundamentals of English grammar, but a mindset that has them looking outward. The first year medical students appeared eager to communicate in English and a desire to learn more. I hope their enthusiasm will continue and, as they get closer to becoming doctors, they will continue to study and learn English.

科目名：基礎化学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：123 配付数：104 回収数：87 回収率：83.7%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.5 | 4.4 | 3.7 | 2.9 | 3.4 | 3.0 | 3.1 | 3.3 |

＊評価に対するコメント

基礎化学 担当教員

これを読む新入生の皆さんには是非化学のことを誤解しないで頂きたいと願っています。私たちは毎年そう願ひ、講義でも説明しているのですが、残念ながら理解できないまま、単位取得に至らない学生が出ています。ですから、真摯に受け止めて頂きたいと思います。「基礎化学」では医学に必要なことは一つも教えていません。「基礎化学」を理解できないと、2学年以降の基礎医学の履修が困難になるだけでなく、その後の臨床科目の理解にも影響します。そのことに疑問を感じる学生は是非化学の教員に質問して下さい。丁寧に説明します。また、医学部の一般教育は化学に限らず、少ない履修時間での目標への到達を迫られています。臨床関連科目の増加の反動で、以前は1年半から2年で学習していた内容を1年足らずで習得しなければならなくなりました。同じことが2年生の基礎医学系科目にも起きています。そのような状況の中で、「基礎化学」では2年生以降の科目で必要とされる項目を選んで、かつスムーズに接続できる程度まで教えています。ですから、内容が多いと感じるのも、難しいと感じるのも当然のことなのです。新入生の皆さんは是非この現実を理解して下さい。また、「基礎化学」の内容は、一見すると高校の化学とよく似ていますので、勉強も高校の延長でよいのではないかと考える人がいるかもしれませんが、しかし、大学での化学は、その内容が高校とはけた違いに深く、高校では学習していなかった基本原理をしっかり学びます。その事実も是非認識して講義に取り組んで下さい。まとめると、速くて内容が多いだけでなく、高校とは根本的に違うほど深いレベルのことを学習するのです。これらの実情は、私たちも普段から説明しているのですが、残念ながらなかなか理解できない人達が、単位を取得できないということになっています。これは、逆に正しく自覚さえしていれば、そのようなことは避けられるということの意味します。是非、皆さん医学部生が直面している現実を認識し、理解して下さい。そのためには、余暇（部活動やアルバイトも含まれます）と勉強との時間管理にきちんとケジメをつける、つまり生活に”メリハリ”をつけることが肝要です。さらに、持ち時間が少ない分、教員を”利用”して下さい。ひとりで悩むことはとても意義深いことですが、反面、割り切って質問しようとする’時間感覚’も重要です。「基礎化学」は自然科学の一部であり、自然科学は”対話”によって理解することが大変有効であることが歴史的にも明らかです。大学生らしいセンスと現状認識をもって、目標に向かって着実に歩き始めて下さい。努力は必ず報われます。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：117 配付数：117 回収数：114 回収率：97.4%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.1 | 4.3 | 3.9 | 3.2 | 3.9 | 3.7 | 4.0 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

総合評価は4.1でした。昨年度(3.9)の結果を踏まえて各教員が改善に取り組んだことが評価されたのではないかと肯定的に受け取っています。本科目では、医学の基礎として、ヒトの生物学を学習主題にしており、扱う内容も多くて複雑です。そのため、学生たちには、個々の知識をただ覚えるだけでなく、それらを整理し、関連づけて理解することが求められます。ところが、試験では、知識の関連付けが不十分な答が返ってくることも少なくありません。教育効果を上げるためには、教員の指導力アップはもちろんですが、学生の事前学習と復習も欠かせません。残念ながら、これらの項目の評価ポイントは低くなっています。自由記載の中に、前半の勉強を怠るとそれ以降の内容が分からなくなる、という感想がありました。来年度はそう感じる学生が一人でも少なくなればと願っています。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：117 配付数：117 回収数：112 回収率：95.7%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.2 | 3.6 | 3.0 | 3.7 | 3.6 | 3.5 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

医用物理学 担当教員

総合評価（問8）は3.7であった。高校時代の物理の未履修状況を考慮すると、概ね良好と判断できるであろう。近年低下傾向にあった予習（問1）や復習に関する評価（問4）が、昨年度より0.2上昇した。また、難易度の適正さ（問6）は0.2、学習意欲（問7）も0.3とそれぞれ上昇した。これらの相乗効果が総合評価につながっていると思われる。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：分子生物学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：117 配付数：117 回収数：112 回収率：95.7%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.1 | 4.3 | 3.8 | 3.2 | 3.6 | 3.3 | 3.7 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

分子生物学 担当教員

問4-問8の全てについて昨年を0.2-0.5上回った。昨年指摘されていた難易度（問6）や学習意欲（問7）に対する改善が評価されたもの（それぞれ0.3および0.4上昇）と考えられる。「再試をしてほしい」というコメントが多かった。これについては「年度末の科目であるため短期間での再試では十分な学習時間の確保が難しい」と考え、実施しなかったものである。検討課題と捉えているが、皆さんには、manaba等の活用で予習、講義、復習のリズムをしつかり身につけた学生生活を心がけてほしい。また、前期開講の医学チュートリアルIや基礎生物学実験での既習事項との関連を強く意識するよう期待する。

科目名：発生遺伝学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：114 回収数：88 回収率：77.2%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.2 | 4.5 | 3.8 | 2.5 | 3.3 | 3.2 | 3.9 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

発生遺伝学 担当教員

総合ポイントは3.8で、昨年度（4.0）より幾分低い評価でした。本科目は15コマの小規模な講義科目であり、前半7コマがヒトの受精や初期発生の過程および先天異常の成因を中心とした発生学、後半8コマがヒトの遺伝形式、染色体異常症、遺伝性疾患に関する遺伝医学から構成されています。医学的な知識を学ぶだけでなく、生命と健康について考える機会にもなっており、学生の評価は概ね良好といえます。講義では最近の知見に関しても触れますが、それについては耳新しい用語が出てきて少し混乱したというコメントが寄せられました。新しい用語の登場は学問が進展している証です。用語を正しく覚えてその意味を理解することは、本科目が掲げる到達目標への第一歩です。

科目名：医学英語Ⅱ A（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：118 配付数：117 回収数：96 回収率：82.1%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.3 | 4.1 | 3.1 | 3.9 | 4.0 | 3.9 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅱ A 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです、今後対応を考えていきます。

科目名：医学英語Ⅱ B（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：108 回収率：90.8%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.3 | 4.1 | 3.1 | 3.8 | 3.9 | 3.8 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅱ B 担当教員

I would like to thank the second year medical students for their encouraging comments. Students showed a high command of English in their ability to communicate with me and with each other.? As future doctors they will need this ability in international conferences and when speaking to non-Japanese doctors here in Japan.? They will also need English to analyze research written in English.? The second year students already have a good command of English, but I hope they will continue to improve their English abilities.? From what I have seen of the second year students, I am confident they will become doctors with high levels of English proficiency.

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：100 回収数：54 回収率：54.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.3 | 4.5 | 3.4 | 2.5 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

基礎医学特論 担当教員

基礎医学特論は、基礎医学講座の各講座の研究内容についてそれぞれの講師に紹介していただくオムニバス形式の講義として実施しました。講義内容が多岐にわたり、また、最新の研究内容の紹介で有ったため、理解が難しいのではないかと心配しましたが、科目全体にたいする満足度は3.9で、良好な評価を頂きました。研究内容を十分に理解することは困難だと思われませんが、いろんな分野の講義を聴くことで今後の学習への刺激になれば、と思います。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：109 回収率：92.4%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.2 | 3.7 | 3.0 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員

寄生虫学は中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければなりません。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。また、動画も多用し、より深く理解してもらおうように務めています。「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が3.8であり、前年度とくらべ上昇いたしました。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：123 配付数：123 回収数：88 回収率：71.5%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.1 | 3.5 | 2.9 | 3.3 | 3.1 | 3.4 | 3.6 |

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員

微生物学では、昨年度から、半分以上の出席を義務項目としました。その点で出席率は改善しましたが、全く講義を聞いていない学生や授業中に遊ぶ学生がさらに多くなり、講義の邪魔となり何度か注意をしました。また、昨年度から、講義の重要復習ポイントを半分の領域で作成し配布しました。学生には講義資料として好評のようですが、逆に試験直前にその答えしか覚えられないという人も多くみられ、学生諸君の自立学習の改善を期待します。

科目名：病理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：107 回収率：89.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.0 | 4.1 | 3.7 | 3.2 | 3.3 | 3.3 | 3.8 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

病理学 担当教員

11月から2月にかけて講義を行ったが、機能形態基礎医学と試験が別になったとはいえ、多くの学生にとり十分な学習時間をとることが難しい過密なカリキュラムかも知れない。本試験から再試験までの期間がきわめて短い点は成績を評価する上で問題であり、現在、改善策を考えている。今回初めて、manabaを利用し、学生からの質問に回答する試みを行ったが（腫瘍病理）、学生の能動学習を促進するだけでなく、講義内容を補足する上でも有効であると思われる。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：92 回収数：48 回収率：52.2%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.3 | 4.2 | 3.6 | 2.6 | 3.2 | 3.5 | 3.6 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。また、これから薬理学を履修する学生は、学修効率を上げるため、講義前に参考書等で講義主題について予習してから講義に臨んで下さい。

科目名：医療概論Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：87 回収率：73.7%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.1 | 3.7 | 2.8 | 3.6 | 3.7 | 3.7 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅱ 担当教員

予習・復習が少ない状況ですが、指定教科書もあるのでしっかり関連する領域を勉強して下さい。尚、試験を行うことに対する否定的な意見がありましたが、医師国家試験では倫理そのものについての問題があり、臨床問題でも倫理的考慮が必要なものが多く出題されています。

科目名：機能形態基礎医学Ⅱ（医学科第2学年通年／必修）
履修者数：128 配付数：124 回収数：113 回収率：91.1%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.2 | 4.2 | 3.9 | 3.2 | 3.4 | 3.1 | 3.8 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅱ 担当教員

講義に対する評価8項目の平均ポイントがすべて向上している。全体でも3.6と前年度の3.1から0.5ポイント向上した。その要因としては、出席率が42%と極端に低かった昨年度の反省に立って、今年度は講義への出席をことあるごとに督促した結果、83%へとほぼ倍増したことが最も大きいと考えている。問2「授業に毎回出席したか」の平均は、昨年の3.2から4.2へと一挙に1ポイント上昇している。「問6、難易度が適切だったか」に対し2または1の回答が、昨年48%にのぼったのが、今年度は22%と大幅に減少した。自由記載欄には、(特に中枢神経解剖・生理の)分量が多い、試験が難しいという例年同様の感想が目立った。2018年度においては、講義出席の督促を継続するとともに、講義項目の順序などを工夫してより学習しやすくなるよう努める。

科目名：医療概論Ⅲ（医学科第3学年通年／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：81 回収率：74.3%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.5 | 4.8 | 4.1 | 3.0 | 3.8 | 4.0 | 4.2 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅲ 担当教員

2015カリキュラムとなり、医療概論Ⅲは、医事法制・漢方医学・医師のワークライフバランスという医師のプロフェッショナルリズムに関与する科目に変化しました。大きな変化は、選択・必修であった漢方の必修化にあると思います。実習時間もとり、腹診、舌診、シュミレーター、試飲、生薬見本観察などの内容も入れ、東洋医学の一部に参加された学生さんは垣間見れたものと推察しています。また必修化に伴う問題として参加人数にあった講義室の確保の問題など指摘をいただきました。コーディネーターとして次年度同じことを繰り返さないように準備をしていきたいと思っています。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：63 回収率：57.8%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.3 | 4.2 | 3.9 | 3.1 | 3.5 | 3.8 | 3.9 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

生体防御医学 担当教員

血液疾患、感染症、自己免疫疾患を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占める。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が昨年同様3.3, 3.1(昨年3.3, 3.4)と本学年も低いことである。加えて授業に毎回出席したか？は回答39人中21人(54%)のみが5の満足できるものであったが、なんと3以下と自己評価した学生が10名(26%), 2以下も3名(8%)であり授業に臨む姿勢そのものに問題がある学生が少なくない。今後の学習意欲を増すか？3.9に比べると、能動的な学習が十分でないことを危惧する。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：95 回収率：87.2%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.2 | 3.9 | 3.7 | 3.3 | 3.1 | 3.0 | 3.3 | 3.3 |

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学 担当教員

感覚器病態医学は、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科に関する講義である。本年度は昨年同様のスケジュールで講義を行ったが、昨年と比較して、問5、問6が低下しており難易度が高く、到達目的を達成できなかったと感じる学生が増えており、自由記載欄には、試験の難易度が高いことへの苦情がみられた。来年度は、学生に対して講義の理解を促す工夫が必要と考えられた。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：105 回収率：96.3%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.2 | 4.3 | 3.9 | 3.2 | 3.6 | 3.7 | 3.8 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

腫瘍学1 担当教員

何人かの講師の交代はあったが、昨年と同様のテーマで腫瘍学総論についての講義を行った。必修科目としての「腫瘍学1」も学生の中に十分に定着したと思われる。進歩の著しい領域であるので、授業では基本的事項とともに最新の情報を伝えるよう努力していきたい。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：78 回収率：71.6%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.4 | 4.1 | 3.8 | 3.4 | 3.7 | 3.5 | 3.7 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学 担当教員

この講義には、精神医学のみならず、神経内科、脳神経外科、小児科、放射線医学が関連して展開されている。講義評価は概ね高く、とくに実際の症例を提示した授業は高い評価を得ており、授業担当者は大いに導入すべき方法であろう。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：89 回収率：81.7%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.0 | 4.1 | 3.8 | 3.0 | 3.5 | 3.7 | 3.9 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

生体調節医学 担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野と病態代謝内科学分野、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。講義数60に比し、講義主題疾患数が多いため、自学自習が必要とされるが、予習・復習・宿題に関する学生自己評価は3点に留まっている。科目全体に対する満足度、内容については3.9点と、一定の評価が得られている。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：16 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.9 | 4.6 | 4.5 | 4.1 | 4.4 | 4.6 | 4.6 |

＊評価に対するコメント

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、今年度もプライマリーケアの基礎知識と実際に学ぶことができたという、非常に高い評価を頂きました。今年度から、対象が3年生だけになりますので、より分かり易いものにしていきたいと考えております。

科目名：臨床感染症学コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：105 配付数：105 回収数：86 回収率：81.9%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.2 | 4.2 | 3.9 | 3.3 | 3.8 | 4.0 | 4.0 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

臨床感染症学コース 担当教員

本コースの平成29度の受講学生は、第3学年54、第4学年51名、合計105名でした。今年度は、CBT対策として、カリキュラムの順番を変更しました。また、一部外部講師の変更が直前であり、学生諸君にはご迷惑をかけました。学習評価は、例年通りに、国試等の過去問題及び講義分担講師の新作問題による期末試験点数及び出席点数を併せた総合点で評価し、多くの受講学生が高成績を挙げました。授業評価は、全ての平均で4.1と、学生諸君に好評価を戴きました。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：9 配付数：9 回収数：9 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.7 | 4.3 | 3.1 | 3.7 | 3.8 | 4.1 | 4.4 |

＊評価に対するコメント

臨床遺伝学コース 担当教員

今年度は、ロールプレイ課題として「マルファン症候群」「筋ジストロフィー」「染色体異常」「ハンチントン舞蹈病」「家族性乳がん卵巣がん」の5課題としてロールプレイセッションを行いました。プレナリーレクチャーのみで、講義はできるだけ少なくしており、情報の収集、伝達の方法について、患者さんの立場と医師の立場を経験できるよう構成されています。ロールプレイセッションでは、医療面接でのBad Newsの伝え方から始まり、患者さんのオートノミーに配慮した医療面接のあり方を体験してもらっています。それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせています。昨年度は履修者が少なく開講できませんでしたが今年度は9名の履修者がおり満足度として4.4点を頂くことが出来ました。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3・4年後期／選択必修）

履修者数：103 配付数：84 回収数：41 回収率：48.8%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.5 | 3.7 | 3.1 | 3.5 | 3.7 | 3.5 | 3.6 |

＊評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

問8の全体として満足できるのかという項目が3.6と低い評価でした。蛋白という領域は幅広く、特に4年生は臨床的な講義が続いているなかで、基礎的領域でやや難しい印象があったかもしれません。問1と問4の予習、復習とも2.7と3.1と低い評価でした。基礎医学、臨床医学での蛋白に関わる魅力的話題を学生に伝えられるように心がけたいと思います。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：107 配付数：95 回収数：41 回収率：43.2%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.1 | 4.3 | 3.6 | 3.4 | 3.6 | 3.6 | 3.7 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コース 担当教員

感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを講義した。学生による評価では、最新の取り組みがわかって面白かったというコメントがある一方、難易度に関する評価が過去最低で、まだ講義されていない内容で終始理解できない講義があつて残念だったとのコメントもあつた。各担当講座の必修科目との重複を避けるよう配慮しつつも、基礎的な内容をふまえて理解ができるような講義となるよう心掛けたい。

科目名：睡眠医学コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：52 配付数：52 回収数：52 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.6 | 4.3 | 3.7 | 3.9 | 4.0 | 4.1 | 4.0 |

＊評価に対するコメント

睡眠医学コース 担当教員

現代社会では睡眠への関心がますます高まっているが、全国医学部において睡眠医学の系統だった教育はきわめて少ない。本学の睡眠のエキスパートたちによる興味ある講義内容は、本コースを選択する学生の増加だけでなく、学生の高い授業評価にもつながっているようである。

科目名：EBM・CPC コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：6 配付数：5 回収数：4 回収率：80.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.8 | 5.0 | 4.8 | 4.0 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 5.0 |

＊評価に対するコメント

EBM・CPC コース 担当教員

開講し13回目を迎えた。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は6名と少数であったが皆学習意欲が強く、個々の学生へ対応を密に行うことが出来、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。総合評価は少人数のためもあるが例年同様5点満点で満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3・4年後期／選択必修）

履修者数：62 配付数：58 回収数：32 回収率：55.2%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.3 | 4.5 | 4.0 | 3.5 | 4.0 | 4.1 | 4.1 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース 担当教員

受講生は62名で評価は32名から頂いた。受講生は昨年の約2倍に増加したが、これはテストを廃止し、出席数とレポート提出で成績判定することにしたためと思われる。しかし、出席日数が不足し単位を認定することが出来ない学生も居た。今回は学内の若い先生方に大いに研究や夢について講義していただいた。その結果、若い先生方にレポートが集中したことは、受講生の興味は若い先生の話の中に多かったと予測される。

科目名：糖尿病・内分泌 Up-Date コース（医学科第3・4年後期／選択必修）

履修者数：93 配付数：93 回収数：25 回収率：26.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.6 | 3.8 | 3.1 | 3.6 | 3.8 | 3.8 | 4.0 |

＊評価に対するコメント

糖尿病・内分泌 Up-Date コース 担当教員

「糖尿病・糖尿病・内分泌 Up-Date コース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、基礎、臨床医学講座により、多角的視点から提供している。出席率は良好であり、満足度は一定の評価を得ていることから、学生の期待に沿う企画であると考えられる。本年度からは、レポート様式を変更し、学生に対し、改めて各分野の最新医学の展開に対する考察と洞察力、記述力等を問い、受講後の学習の機会としている。

科目名：臨床薬理学コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：22 配付数：22 回収数：21 回収率：95.5%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.5 | 4.3 | 3.2 | 4.0 | 4.0 | 4.2 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を、臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：79 回収率：61.7%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.6 | 4.1 | 3.9 | 3.6 | 4.0 | 4.1 | 4.0 | 4.0 |

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

本科目は、日本の現代医学教育から脱落している心身機能低下がある方々の健康上の特徴と、それに対する医学的な対応について纏めた科目として2012年から開始された。前半は主に健康弱者に対する総論と意識の持ち方、後半は知識領域からなる。前者はペーパー試験による到達度評価が難しい面は否定できない。教科書が無いことから予習、復習の評価点数が低い総合評価4.0始め他の項目も4点を越えており科目の意義は理解されたと思う。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：128 配付数：127 回収数：111 回収率：87.4%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.6 | 4.0 | 4.0 | 3.5 | 3.9 | 3.9 | 4.2 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

旭川医大の臨床教育は、知識の伝授としての系統講義、知識の整理のための症候別課題別講義、知識の応用のためのチュートリアルⅢ・Ⅴと3層構造で行われています。満足度も4.1と比較的高く安定した値になっています。項目の統廃合をしながら本講義を継続していく予定です。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：80 回収率：62.5%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.1 | 3.8 | 3.6 | 3.7 | 3.7 | 3.8 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

学生評価の各アンケート結果は、概ね「3」を上回る評点を獲得していた。とりわけ、授業に対する学生の満足度(問8)に関しては、例年平均を上回る結果であり、今後も引き続き、授業内容と授業方法の改善に取り組み、学生の学習意欲向上に努めていきたいと考える。一方、「薬剤名、薬理作用について難しい」といった意見が見受けられたことから、これらを体系的に理解ができる内容に見直し、改善して行きたいと考える。

科目名：医療安全（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：36 回収率：28.1%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.4 | 3.9 | 3.1 | 4.1 | 4.3 | 3.9 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

5年目となった医療安全講義も毎年少しずつですが改善を加えてきたこともあり、学生の皆さんはよく学習していました。企画に対する評価の中で、予習復習に関する質問項目で点数が低い理由の一つに、適切な教科書がないことがあると思います。次年度以降はLMSを利用した予習・復習の環境整備を行っていこうと考えています。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：37 回収率：28.9%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.5 | 4.1 | 3.8 | 3.9 | 3.7 | 3.7 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

論文の批判的吟味である critical reading や、疫学解析演習も含めて総合的に臨床疫学を学ぶため、やや難易度が高いと思われたかも知れません。しかしながら、しっかり勉強した人は臨床試験の結果等を適切に判断できる能力や、自ら臨床研究を行う基礎ができたと思います。臨床医となる場合は本分野についてしっかり理解して卒業してください。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：83 回収率：64.8%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.6 | 4.2 | 4.0 | 3.6 | 4.0 | 4.1 | 4.1 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

問8の総合評価では今年4.2でした。科目内容では問6で示した難易度、問7で示した学習意欲も4.1と評価をいただきました。引き続き意欲が高まるように配布資料の工夫、検査機器の写真や測定技術の紹介など授業内容の充実、授業方法の改善に取り組みたいと思います。また検査値の読み方などを紹介して臨床実習や研修における学生の実用的助力となるように努力します。

科目名：医療概論4（医学科第4年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：86 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.6 | 4.1 | 3.9 | 3.6 | 3.9 | 4.1 | 4.1 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

医療概論4 担当教員

医療概論4では系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講してきましたが、本年度をもちまして本科目は終了となります。授業内容、試験形式等いろいろ指摘された点を見直し、救急医学だけでは学ぶことのできない救急医療の諸問題を考えるきっかけになっていたのではないかと考えております。新年後からは救急医学という系統講義が独立して行われますので、今後はその枠でお話ししていければと考えております。

科目名：医療情報学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：85 回収率：66.4%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.2 | 3.9 | 3.5 | 3.9 | 4.1 | 3.9 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。履修内容は医療分野でのICT、個人情報管理、病院経営、知的財産などについてであり、いずれも医療人として習得しておきたい領域である。本講義に対する学生評価は問5から8まで概ね3以上であり、テーマ、履修内容に関しては現状のまま平成30年度以降も継続することとした。また、これまで開講時期について学生諸君から不満の声が聞かれたが、平成30年度は前期に開講されることになった。今後さらに学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義内容にするよう検討したい。

科目名：漢方医学コース（医学科第4学年後期／選択必修）

履修者数：72 配付数：69 回収数：42 回収率：60.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.4 | 4.6 | 4.2 | 3.4 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 4.6 |

＊評価に対するコメント

漢方医学コース 担当教員

本年度から3年生には必修授業として8コマ開講し、昨年度選択授業で選択していない4年生72名が受講(15コマ)されました。アンケートから、実習講義は、「非常にためになった」「楽しかった」とのコメントを戴き実習講義の重要性を再認識しております。臨床現場では、多くの場面で漢方薬を使用しています。授業で学んだことが、臨床現場で基礎になるものと期待しております。今後、漢方薬の処方量は益々増え、多くの場面で活躍していることから授業数が増えることを願っております。

科目名：全人的医療・緩和ケアコース（医学科第4学年後期／選択必修）

履修者数：7 配付数：7 回収数：7 回収率：100.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.3 | 4.7 | 3.8 | 4.5 | 4.3 | 4.7 | 4.8 |

＊評価に対するコメント

全人的医療・緩和ケアコース 担当教員

本コースは、緩和ケアをテーマとして、医師のプロフェッショナリズム・態度を学ぶものです。そのため知識の伝達を目的とせず、双方向性のやりとりを重視し、学生自身に考えさせるように展開しています。例年以上により評価を頂きました。全体の満足度は5点満点でした。選択コースの時間で伝えられることは限られています。しかし、本コースをきっかけに、今後の学びが刺激されたのであれば、果たした役割は小さくはないでしょう。医学部のどこかで、自分がどんな医師になるかを真剣に考える時間がないといけません。緩和医療の必修化に伴い、本コースは今年度が最終年でしたが、本コースのエッセンスを医学部教育に生かしていきたいと思っております。

科目名：加齢と適応の医学コース（医学科第4学年後期／選択必修）

履修者数：53 配付数：36 回収数：10 回収率：27.8%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.4 | 4.0 | 3.4 | 3.8 | 3.9 | 3.8 | 4.0 |

＊評価に対するコメント

加齢と適応の医学コース 担当教員

超高齢化社会を迎えた我が国のアンチエイジングを考える上で、不可欠とも言うべき加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解するためのコースです。主旨を理解しご協力いただいている複数の担当科の先生方のご努力には敬意を表します。また全項目に渡って安定した高評価を得たことは、コースとしての充実度を反映するものと嬉しく思います。老化のキーワードが共通するため、重複が懸念される点は、新たなカリキュラム編成の中で再考すべきかと思っております。不老長寿は夢物語と言えない時代に、医学生とともに未来志向の講義が展開できればと願います。

科目名：英語 I A（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：56 回収率：94.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.8 | 4.4 | 4.2 | 3.7 | 4.0 | 3.9 | 3.7 | 4.0 |

＊評価に対するコメント

英語 I A 担当教員

全体的に授業での演習に熱心に取り組んでいました。今年度は演習に使う英文の語数を増やしたこともあり、最初は大変だったと思いますが、後半は読解のスピードも上がっていました。しかし、授業外で英語に触れる機会を増やせなかったことは教員の側からも改善すべき点であると考えています。来年度以降も英語力を高めることを期待しています。

科目名：英語 I B（看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 | 問 6 | 問 7 | 問 8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.5 | 4.1 | 3.1 | 3.9 | 3.9 | 3.9 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

英語 I B 担当教員

I appreciate the comments from the first year nursing students. This year's class of nursing students impressed me with their hard work and enthusiasm. Learning English requires students to be actively involved in class activities and everyone did their utmost when participating in pair work and group work activities. There are many opportunities in the field of health care which can only be realized by acquiring English proficiency. I hope the first year nursing students will continue to work hard and improve their English skills as they move towards graduation.

科目名：形態機能学（看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：63 配付数：62 回収数：62 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 | 問 6 | 問 7 | 問 8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.2 | 3.7 | 3.3 | 3.5 | 3.5 | 3.9 | 3.9 |

＊評価に対するコメント

形態機能学 担当教員

平成 29 年度は授業の満足度が 3.9 ポイントと昨年度より 0.2 ポイント低下した。しかしながら、他の評価項目は何も昨年度以上のポイントとなっており、全体的には改善していると考えられる。平成 30 年度においてはこれまでの授業内容改善の努力を継続し、個別の評価項目のさらなる改善目指すことで全体の満足度のアップにつなげていきたい。

科目名：対人関係論（看護学科第 1 学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：45 回収率：76.3%

＊評価結果（平均）

| 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 | 問 6 | 問 7 | 問 8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.4 | 4.9 | 4.0 | 3.0 | 4.0 | 4.3 | 4.2 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

対人関係論 担当教員

今年度は全体の満足度がもう少し上がることを目標に演習など改善をしたのですが、思ったほどの上昇は見られなかったです。この授業は演習を非常に多く取り入れています。演習の体験を通して、今後の対人関係に活用できることを目指しているのですが、学生の積極性にやや格差があるようです。演習量を増やすのではなく、学生がしっかり意義をもって参加できるための説明や授業の組み立てをさらに考えていきます。一方で、「実習前にこの授業を受けたかった」という学生からの声も毎年聞きますので、より実践で活かしてもらえるような工夫をしていきます。

科目名：地域看護学（看護学科第 1 学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：50 回収率：82.0%

＊評価結果（平均）

| 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 | 問 6 | 問 7 | 問 8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.4 | 4.6 | 3.9 | 3.7 | 4.0 | 4.3 | 4.1 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

地域看護学 担当教員

総合看護の理念の実践が地域看護であるとの気づきも見られました。「地域看護とは何か」を考え自主的に予習を行うなど学習意欲の向上につながることを考えたいと思います。

科目名：臨床心理学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：50 回収数：47 回収率：94.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 2.7 | 4.2 | 3.9 | 3.5 | 3.9 | 4 | 4.1 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

臨床心理学 担当教員

問7・8は前年と同程度の評価を受けており、今後も学生にとって具体的で身近なものとして臨床心理学を学べるよう講義内容の工夫に心がけていきます。ただ、予習・復習に関わる問1・4は低い評価が出ている為、講義がその場限りにならないよう継続的な学習を念頭に置いた進め方を考えていきたいと思ひます。

科目名：代謝栄養学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3 | 4.3 | 3.9 | 3.6 | 3.7 | 3.9 | 4.1 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

代謝栄養学 担当教員

各問のスコアは昨年とほぼ同じで、難易度など含め適切な内容であったと思ひれます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたと思ひます。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.2 | 4.3 | 3.9 | 3.5 | 3.7 | 3.6 | 3.9 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

感染免疫学 担当教員

本年度は難易度に関するスコア・全体的な満足度について、昨年と同程度の評価でした。本年度の新しい試みとして、免疫学の学習教材として、試験的に learning management system (manaba) を利用し、講義内容に沿ったドリルを導入したところ、“良かった”“理解しやすかった”との声があり、今後も改善を加えてより良い教材として提供していこうと思ひています。また次年度は内容の順番（現在、免疫学⇒微生物学の順）についても再考したいと思ひます。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：117 配付数：117 回収数：112 回収率：95.7%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.2 | 3.7 | 3.3 | 3.9 | 3.9 | 3.7 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

健康教育論は、就職してからの患者教育には必須の講義ですので、第1学年での講義は学生にとってしんどいかもかもしれませんが、実際の様子をイメージしてもらえると理解が進むと思ひます。講義ではアクティブラーニングをイメージするように工夫をしましたが、反応が思わしくなかったため今後はさらに改善を試みたいと思ひます。

科目名：英語Ⅱ A（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.7 | 4.6 | 4.2 | 3.4 | 3.9 | 3.5 | 3.4 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

英語Ⅱ A 担当教員

昨年度から、学生が各自のペースで課題に取り組み確認テストを受験することにより学習到達度を確認する授業スタイルに変更しました。非常に熱心に課題に取り組み、計画的に学習していたと思います。来年度はより円滑に学習を進めることができるよう、演習の流れで工夫できるところは工夫しようと計画中です。

科目名：英語Ⅱ B（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 3.3 | 4.4 | 3.8 | 3.4 | 3.9 | 4 | 3.8 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

英語Ⅱ B 担当教員

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse".

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：49 回収率：84.5%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.3 | 4.6 | 4.2 | 3.9 | 3.9 | 3.8 | 4.3 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅰ 担当教員

今年度の成人看護学Ⅰでは、学生の評価点のうち事前学習が他の評価に比べて3.3と低い傾向にあります。どの科目でもいえることですが、成人看護学の範囲は大変広く、講義だけではすべてを教えることはできません。そのため予習と復習が欠かせない科目です。予習のため資料に教科書の講義範囲のページを載せていますが、活用している学生は少ないようで残念です。

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：57 回収数：45 回収率：78.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.5 | 4.5 | 3.5 | 2.8 | 3.4 | 3.3 | 3.6 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。また、これから薬理学を履修する学生は、学修効率を上げるため、講義前に必ず教科書を読んできて下さい。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.4 | 3.7 | 3.1 | 3.8 | 3.9 | 3.8 | 3.8 |

＊評価に対するコメント

公衆衛生論 担当教員

公衆衛生論の講義は、疾病予防・健康増進など、一次予防の観点で物事を考える重要な講義です。多くの学生は講義に集中していましたが、一部の学生は睡眠不足のようで講義に集中できていなかったのは残念でした。講義の準備等で開始が遅れたことについては改善したいと思います。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：47 回収率：81.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 3.7 | 4.7 | 4.3 | 4 | 3.8 | 3.7 | 4.2 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員

全体の平均点で4.1点、昨年と比較して、0.3ポイント向上した。特に予習・復習のポイントが上昇していることから、学生諸君の取り組み、授業資料の工夫によると考える。しかし、達成度と難易度は例年と変わっていない。この講義は、翌年から始まる母性看護学実習の基礎となるものなので、臨床実習をイメージしやすいように工夫を検討する。

科目名：疾病論Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 2.9 | 4.1 | 3.6 | 3 | 3.9 | 3.8 | 4.3 | 4.4 |

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅰ 担当教員

本年度も昨年同様高い評価が得られたようです。次年度も本年度同様の充実した内容を企画したいと思います。

科目名：疾病論Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.2 | 3.9 | 3.1 | 4.1 | 4.1 | 4.5 | 4.5 |

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅱ 担当教員

本年度も昨年同様高い評価が得られたようです。次年度も本年度同様の充実した内容を企画したいと思います。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：57 回収数：50 回収率：87.7%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 4.7 | 4.8 | 4.4 | 4.3 | 4 | 4 | 4.1 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

今年度も学生による看護理論のプレゼンテーションを行うピアレクチャーを行い、評価は満足度4.3と良好でした。各自が理論の予習(問14.7)をし、プレゼンを聞くため、理解もしやすかった(問54.0)と考えています。図書館にある文献の不足が指摘されていますので、改善を図りたいと思います。

科目名：看護論理（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：44 回収率：74.6%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 3.8 | 4.8 | 4.4 | 4.2 | 4 | 4.1 | 4.3 | 4.4 |

＊評価に対するコメント

看護論理 担当教員

満足度は4.4と高評価でした。看護倫理の講義では倫理原則といった知識に加えて、看護場面における倫理的判断について自分の意見を他者と検討することでさらに考えを深めて、これからの看護実践に反映させていくものです。学習意欲に関する問7も4.3であり、今後の学習につながるものと考えています。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3 | 4.7 | 4.2 | 3.6 | 4.1 | 4.2 | 4.3 | 4.4 |

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員

評価は概ね4.0台となり、学生にとって満足できる内容だったと考えます。その中で、問1・4の予習・復習は極端に低い結果となりました。しかし、問5の到達目的は達成したという評価であり、それは良かったと思います。自由記載には、「後期試験の範囲が広すぎる」との意見もありましたが、復習する機会と捉え、今後もこの方向で授業を企画したいと考えます。同時に、普段から予習・復習をして学びが深まるような授業の改善に取り組みます。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：41 回収率：69.5%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.5 | 4 | 3.1 | 3.8 | 3.9 | 4.2 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅱ 担当教員

精神看護学の難しさだけでなく、なかなかデータ化できない現象をおもしろく伝えられるように工夫しました。全体で4.3という評価となり、精神看護に興味をもてたという感想も聞かれ、おおよそ授業目的は達成できたと振り返ります。一方で、3コマ続きの授業スケジュール、また私自身が実習を担当しながらの授業であり、身体のことを心配してくれた学生さんがいました。やはり学生さんに心配してもらう不安を与えたのは私自身の時間の管理不足ということで、そこは来年度に向けての課題とします。

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 3 | 4.6 | 4.1 | 3.8 | 4 | 4.1 | 4.1 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅰ 担当教員

予習・復習に関する項目以外は、4点台であり、講義の目的は概ね達せられていると考える。学習意欲は高まったかについては4.1点であり、前年度よりも高いことは喜ばしいことであり、学習意欲が高まる工夫を継続したい。

科目名：看護研究Ⅰ・Ⅱ（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：42 回収率：67.7%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.3 | 4.5 | 4.3 | 3.9 | 3.5 | 3.3 | 3.5 | 3.5 |

＊評価に対するコメント

看護研究Ⅰ・Ⅱ 担当教員

始めに各自に研究テーマを出してもらい“看護研究になり得るテーマか”をグループワークしました。皆さん、実習経験浅いときでしたが、よく考えていたと思います。“私の研究の問い”を磨き、何が目的か、どんな意義があるか、目的に合った手法は何か、考え抜くことが大切です。解らないことは、指定テキストにあたる、教員に質問する、図書館で調べるといいでしょう。本講は、そういった研究に必要な態度を学ぶ科目だったので。

科目名：卒業研究（看護学科第4学年通年／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：24 回収率：44.4%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 3.7 | 4.6 | 4.5 | 4.1 | 4.3 | 4 | 4.1 | 4.3 |

＊評価に対するコメント

卒業研究 担当教員

1年を通してじっくりと向き合った看護研究は大変なエネルギーだったと思います。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| あなた自身について | 問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。 |
| 実習（演習）計画 | 問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。 |
| 実習（演習）内容 | 問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。 |
| 実習（演習）環境 | 問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされてきましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされてきましたか。 |
| 総合評価 | 問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。 |

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
④ やや思う (良い)
③ どちらとも言えない (普通)
② あまりそう思わない (あまり良くない)
① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎化学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：111 配付数：111 回収数：109 回収率：98.2%

*評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.8 | 4.9 | 4.5 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.5 | 4.3 | 4.1 | 3.5 | 3.8 | 4.3 | 4.5 | 4.2 | 3.9 |

*評価に対するコメント

基礎化学実習 担当教員

寄せられたコメント件数は例年より少なかったのですが、内容は例年と同じでした。繰り返しになりますが、コメントに答えます。まず、実習に入る前の説明が長すぎるというコメントが寄せられました。基礎化学実習の内容の説明が他の実習科目より長くなる理由は「安全教育」と「環境保全教育」を行うからです。危険性があり、また環境保全のために廃棄法が決められている化学物質、あるいは操作に危険を伴う器具の取り扱いについての学習・訓練は、基礎化学実習以外の科目ではほとんど学ぶことがありません。そのため、十分に時間をかけて厳しく指導します。むしろ貴重な機会としてとらえ、しっかり学習して下さい。また、薬品や器具の正しい取り扱い方を習得することは、皆さんが考えているほど簡単なことではありません。次に、週2本のレポートは多すぎるというコメントも寄せられました。このような方は現場の厳しさに耐えられるのでしょうか。最後に、実習内容の説明が長いことが、寝てしまったり、予習をしなくてもどうにかなるという誤解につながるのではないかとコメントが寄せられました。実習の説明が長いことを寝てしまう言い訳にしたり(寝てしまう人は特定の人でした)、予習をしなくても何とかなんと誤解している人は、今後取り返しのない問題を起す可能性が非常に高いことを自覚してください。あなた方の実習での態度には、各自の人間性や倫理観が大きく反映されます。医師に求められる高い倫理性を将来備えることができるかどうか大きく影響することを自覚して下さい。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：111 配付数：110 回収数：99 回収率：90.0%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.7 | 4.7 | 4.3 | 4.1 | 4.4 | 4.1 | 4.1 | 3.7 | 4.2 | 4.2 | 3.8 | 3.9 | 4.1 | 3.9 | 4.2 | 4.4 | 4.4 | 4.1 |

＊評価に対するコメント

統計学実習 担当教員

Since the satisfaction level for this lesson was 4.1 on average, it seems that the evaluation result is insufficient. We have received a number of opinions about the contents of the training that the explanation of the purpose, intention, and points of interest to be learned is not sufficient. There was also a request for concrete contents of analytical statistics that is required for higher grade students. Based on the above, we will make efforts to improve the training content. Although explanation on how to write a report is carried out every time, about one third of students do not improve theirs. We are considering improvement of explanation method.

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：102 回収率：86.4%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.7 | 4.5 | 4.1 | 4.4 | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4 | 4 | 3.9 | 3.9 | 3.6 | 3.9 | 4 | 4.1 | 4.1 | 4 |

＊評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習 担当教員

本実習は、心理学実習、模擬患者実習、および、介護施設でのユマニチュード実習により構成されている。最終週の報告会では、ユマニチュードの開発者であるジネスト先生に直接指導していただいた。本年度は、学生の満足度が4.0、実習全般の評価が3.9-4.1、受講態度が4.5と全般的に高い値となった。一方、レポートの分量についての評価は3.6となり、前年度よりも低下した。これは、心理学実習において、「実習内容に関連する先行研究論文を読んでより深い考察を行う」という要求を本年度より追加したためと思われる。次年度は、レポート課題の分量を見直す必要があるだろう。

科目名：医療社会学実習（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：119 配付数：112 回収数：85 回収率：75.9%

＊評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.8 | 4.5 | 3.7 | 3.4 | 3.7 | 3.4 | 3.2 | 3.3 | 3.2 | 3.3 | 3.1 | 3.3 | 3.1 | 2.9 | 3.4 | 3.4 | 3.2 | 2.7 |

＊評価に対するコメント

医療社会学実習 担当教員

医療社会学実習は、履修者がグループごとに調査を計画し実行し、成果を報告することに、主に課外で取り組む実習です。他の授業や実習とくらべると、主体的かつ能動的な活動が求められます。医学科の2年生が課外で活動することには難しさがありますが、スケジュールの調整や作業の分担などを行うことで、ほとんどのグループが調査をうまく進めていたと評価しています。ただ、自由記述の内容をみると、研究のデザインや研究方法について、もう少しサポートする必要があるとわかりました。来年度は、上記のような点にも注意し、より充実した実習にしたいと考えています。

科目名：形態学実習Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：121 配付数：121 回収数：110 回収率：90.9%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4.5 | 4.8 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4 | 4.6 | 4.3 | 4.7 | 4.7 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.6 | 4.6 | 4.7 | 4.6 | 4.7 |

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅱ 担当教員

全般的には例年通りの評価を得ていると考えている。教員の人数が少ないとの不満が多少目につく。学生の人数が増えている中で、教員が限られているので、仕方ない面もある。実習内容の見直しも行き、AV教材の充実も含めて効果的な実習となるように努めていきたい。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：80 回収率：62.5%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.6 | 4.4 | 4.1 | 4 | 4.2 | 4 | 4 | 4 | 4.1 | 4 | 3.9 | 3.9 | 3.8 | 3.9 | 3.9 | 4.2 | 4.1 | 4 |

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

本実習は、同名の授業科目と連動して実体験を通して理解を深めるためのものである。従来、グループ毎に研究テーマに沿った実験、調査、実地訪問を行い成果をまとめて発表会を行う形式であった。本年は実施期間が短くなったため、全体での環境測定や疲労調査の手法の体験と、現場での活動の紹介を行った。実体験的でなくなったが、現状の中で今後、改善・充実を図りたい。

科目名：法医学実習（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：77 回収率：60.2%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.5 | 4.4 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 3.9 | 4.1 | 4 | 4 | 4.2 | 4.1 | 4.2 | 4.2 | 4.2 |

＊評価に対するコメント

法医学実習 担当教員

H24年度のカリキュラム変更により法医学関連講義時間数が激減した為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状の中、骨実習、死亡診断書（死体検案書）の書き方を今年も例年通り行った。学生からのコメント及び授業評価の評点より、今年も概ね好評であったと言えよう。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：51 回収率：81.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4.7 | 5 | 4.8 | 4.6 | 4.7 | 4.6 | 4.5 | 4.2 | 4.7 | 4.7 | 4.4 | 4.4 | 3.7 | 4.4 | 4.4 | 4.7 | 4.2 | 4.5 |

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

非常に高い評価でした。皆さんが真面目に学習に取り組んだことが、評価から伝わってきました。唯一、提出物の量・内容が適切であったかが3点台でした。演習は事前学習の如何により学習目標の達成が大きく異なります。そのため事前学習は必須です。教員も提出物の量は多いと認識していますが、必要な学習です。より役に立つ学習資料になるように検討していきたいと思っております。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.9 | 4.8 | 4.5 | 4.2 | 3.9 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.2 | 4.2 | 3.9 | 3.7 | 3.4 | 3.4 | 4.1 | 4.3 | 3.8 | 3.7 |

＊評価に対するコメント

自然科学実験 担当教員

総合評価（問18）が0.3上昇しただけでなく、問5-問17の全てについて昨年を0.1-0.7上回った。昨年指摘されていた難易度（問12）や課題量（問13）に対する改善が評価されたもの（それぞれ0.7上昇）と考えられる。具体的コメントでは、昨年に引き続き「時間が長すぎる」というものが多かった。これは、実験テーマによっては安全性や正確なデータを確保するための対応であると理解して頂きたい。今後は、MANABA等の活用で実習内容を予習したり、終了予定時間を確認したりして、各自が実習後のスケジュールにゆとりを持てるようにして頂きたい。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3.9 | 4.7 | 4.6 | 4.4 | 4.5 | 4.4 | 4.5 | 4.3 | 4.4 | 4.5 | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 4.2 | 4.4 | 4.5 | 4.5 | 4.5 |

＊評価に対するコメント

生体観察実習 担当教員

生体観察実習は満足度が4.5ポイントと比較的高得点を得る事ができ、コーディネーターとしては満足をしている。個別評価項目についても1項目を除き4ポイント以上とで、昨年度3.9ポイントだった「技術の修得」と「難易度」も改善された結果となった。平成30年度においてもより充実した実習を継続していきたい。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：56 回収率：90.3%

＊評価結果（平均）

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4.8 | 4.9 | 4.9 | 4.8 | 4.7 | 4.5 | 4.3 | 3.6 | 4.6 | 4.6 | 4.4 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 4.3 | 4.6 | 4.5 | 4.5 |

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱは臨床の場面に近い状況で看護援助ができるようになることを目指し、1事例の状況に応じた看護技術トレーニングを行っています。デモンストレーションは学生が担当しており、単に技術を獲得することだけでなく、看護展開を考えていくことを重視しています。全体の満足度4.5、さらに予習4.8と学生が積極的に参加していたことがうかがえます。一方で課題もあり、教員の指導やデモンストレーショングループにより方法が違うという意見が複数見られました。看護の方法は1つではないことを演習を通して感じて欲しかったのですが、その重要なことがうまく伝わらなかったようで混乱につながったようです。次年度に向けガイダンスの在り方、評価視点の明確化など工夫していきたいと考えています。

臨地看護実習企画に対する学生評価

| | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実 習 計 画 | 問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。 |
| 実 習 内 容 | 問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。 |
| 実 習 環 境 | 問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。 |
| 総 合 評 価 | 問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。 |

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅱ (看護学科第2学年後期／必修)

履修者数：59 配付数：58 回収数：49 回収率：84.5%

*評価結果(平均)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4.4 | 4.1 | 4.3 | 3.6 | 4.4 | 4.4 | 4 | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.5 | 4.6 |

*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

入院患者を受け持ち、患者の全体像を理解し、計画立案・実施・評価することは、看護実践そのものです。この実習は初めての受け持ち患者への看護実践で戸惑いや不安があったと思いますが、皆さん真摯に患者に向き合っていました。実習は実習中の努力に加えて、これまでの学習の積み重ねが大きく影響します。提出物についてのフィードバックは、学生の学習状況と患者の病状(回復や退院予定など)を加味して行っています。この点に関しては、学生の皆さんの要望に応えられていない場合があったようです。実習という特殊な学習環境のため、やむを得ない場合もありますが次年度に向けて検討します。

教員の異動

| | | | | |
|------------|-----|----------------------|-----|-------|
| 平成30年5月1日 | 採用 | 病院病理部 | 教授 | 谷野美智枝 |
| 平成30年5月17日 | 配置換 | 医学部先端医科学講座 | 教授 | 船越洋 |
| 平成30年6月1日 | 昇任 | 医学部麻酔・蘇生学講座 | 講師 | 神田恵 |
| 平成30年6月1日 | 昇任 | 病院麻酔科蘇生科 | 講師 | 遠山裕樹 |
| 平成30年6月21日 | 昇任 | 教育研究推進センター | 教授 | 松本成史 |
| 平成30年7月12日 | 昇任 | 教育研究推進センター | 准教授 | 齊藤幸裕 |
| 平成30年7月12日 | 昇任 | 病院産科婦人科 | 講師 | 高橋知昭 |
| 平成30年7月12日 | 配置換 | 病院臨床研究支援センター | 准教授 | 竹原有史 |
| 平成30年8月1日 | 採用 | 医学部外科学講座(消化器病態外科学分野) | 教授 | 角泰雄 |

今後のスケジュール

| | |
|-------------------|------------------------------------------|
| 9月3日(月)～19日(水) | 看護学科第3学年前期試験週 |
| 9月10日(月)～21日(金) | 医学科第3学年前期試験週 |
| 9月18日(火)～28日(金) | 医学科第1、2学年前期試験週 |
| 9月18日(火)～28日(金) | 看護学科第1、2学年前期試験週 |
| 9月19日(水) | 解剖体慰霊式 |
| 9月20日(木)～10月5日(金) | 医学科第4学年試験週 |
| 10月17日(水)～19日(金) | B型肝炎ワクチン第3回接種 (医学科第3、4学年・看護学科第2学年対象) |
| 11月5日(月) | 本学記念日 |
| 11月20日(火)～22日(木) | B型肝炎ワクチン効果測定等採血日 (医学科第4学年・看護学科第2学年対象) |

冬季休業

| | |
|------------------|--------------------|
| 医学科第1学年、看護学科第1学年 | 12月17日(月)～1月11日(金) |
| 医学科第2学年、看護学科第2学年 | 12月17日(月)～1月11日(金) |
| 医学科第3学年 | 12月17日(月)～1月4日(金) |
| 看護学科第3学年 | 12月14日(金)～1月4日(金) |
| 医学科第4学年 | 12月31日(月)～1月9日(水) |
| 看護学科第4学年 | 12月14日(金)～1月4日(金) |
| 医学科第5学年 | 12月24日(月)～1月4日(金) |

第172号表紙

今月号の表紙の写真は、医学科第3学年 小笠原 亜美さんから提供いただきました。

水槽の中で気持ち良さそうに泳いでいるアザラシの姿。そのまるっこい姿と可愛らしい表情は見ているだけで癒されますね。

学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。課外活動での様子、旅先での1枚など気軽に応募してください。ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。